

**令和2年度**（2020年度）

**教育委員会の点検・評価報告書**

令和元年度（2019年度）事業対象



**高崎市教育委員会**

## 基本方針

本市では、「教育と人づくり」を基本方針の一つに掲げて新しいまちづくりに取り組んでおり、一人ひとりの子どもたちや市民に寄り添う教育行政の充実を図っています。また、子どもたちがいじめのない環境で健やかに、伸びやかに、個性豊かに育つため、学校や地域社会で守り育てる環境を整えることが大事であると考えています。

「教育都市高崎」の創造を目指し、子どもたちの命を守る危機管理の強化、子どもたちや保護者、地域が誇れる学校教育の充実、子育てや親としてのあり方など家庭教育の充実、市民の自己啓発のための生涯教育の充実、人生を豊かにするためのスポーツの推進などに取り組んでいきます。

## 高崎市教育大綱の施策の視点

1. 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成
2. 子どもたちの心身の健康と体力の向上
3. 安全で多機能な教育環境づくりの推進
4. 地域力を育む社会教育の充実
5. 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

## 教育委員会委員（令和2年9月現在）

職名	氏名
教育長	飯野真幸
教育長職務代理者	竹内かずゆき
委員	清水くみ美
委員	塚田ひろこ
委員	しげ重 田 誠

## 目 次

I	令和元年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について	1
II	教育委員の活動状況	4
III	会議実績	5
IV	点検・評価結果	
	<点検評価シート>	
	生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成	7
	子どもたちの心身の健康と体力の向上	26
	安全で多機能な教育環境づくりの推進	35
	地域力を育む社会教育の充実	38
	歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	49
V	点検・評価結果に対する学識経験者の意見	66
VI	点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性	74



## I 令和元年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について

高崎市教育委員会では、平成13年に21世紀の教育行政を長期的な視野で調査・研究し、生涯にわたる教育のあり方や方向性を「高崎市教育ビジョン」として策定し、さまざまな教育課題に取り組んできました。その後、新たな課題の発生や市町村合併により、大きく変化した教育環境に対応するため、平成20年4月に「教育ビジョン」の改定を行いました。

その後、本市では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、市長と教育委員会で開催する「総合教育会議」において、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として「高崎市教育大綱」を策定しました。「教育ビジョン」の計画期間は満了しましたが、その趣旨や施策・事業等は「高崎市教育大綱」に基づく施策として承継されています。

教育委員会では、「高崎市教育大綱」に掲げる5つの施策の視点に基づく教育行政と重点施策の推進を図るため、年度ごとに「高崎市教育行政方針」を策定し、当該年度の教育施策の基本的な考え方や方策を決定するとともに、各事業の内容や目標を具体的に示しています。

この点検・評価報告書は、「2019年度教育行政方針」に掲げた施策・事業等の実施状況を評価検証するもので、今後の施策の方針等を検討した結果についてお知らせするものです。

### 参 考

#### ○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 教育大綱

## 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

### 取組

- 1-1-1 教育機関の連携強化
- 1-1-2 学力向上への取組
- 1-1-3 いじめ対策の更なる強化
- 1-1-4 ゆとりある創造的な教育
- 1-1-5 家庭地域との連携強化
- 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上
- 1-1-7 特別支援教育の充実
- 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実
- 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進

### 令和元年度の取組（事業）

- 幼・保・小連携推進事業
- 子どもの学ぶ意欲向上事業
- 児童生徒の学力補充事業
- 英語教育指導事業
- 高崎市学力アップ推進事業
- いじめ防止対策事業
- やるベンチャーウィーク推進事業
- 「気になる子」対策事業
- 読書活動推進事業
- 学校・家庭・地域連携事業
- 学校教育力向上対策事業
- 通級指導教室推進事業
- 教育調査研究・研修事業
- 適応指導教室推進事業

- 1-2-1 確かな学力の確立
- 1-2-2 キャリア教育の推進
- 1-2-3 国際理解教育の推進

- 学力向上推進事業
- キャリア教育推進事業
- 国際教育推進事業

## 子どもたちの心身の健康と体力の向上

### 取組

- 2-1 心と体の健康づくり
- 2-2 体力の向上とじょうぶな体づくり
- 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保
- 2-4 魅力ある学校給食づくり
- 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成

### 令和元年度の取組（事業）

- 児童生徒等健康管理対策事業
- 学校保健充実事業
- 部活動充実事業
- 学校体育充実事業
- 交通教室事業
- 給食充実事業
- 給食運営事業
- 小学生自然体験活動事業
- 「健康教育」啓発事業

## 安全で多機能な教育環境づくりの推進

### 取組

- 3-1 安全・安心な学校づくり
- 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり
- 3-3 地域性を発揮させた学校づくり
- 3-4 環境にやさしい学校づくり

### 令和元年度の取組（事業）

- 箕輪小学校校舎改築事業
- 学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園）
- 学校施設整備事業（高等学校）
- 学校体育施設開放事業

## 地域力を育む社会教育の充実

### 取組

- 4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進
- 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進
- 4-1-3 人権文化の創造
- 4-1-4 家庭教育の振興
- 4-1-5 学習支援体制の整備
- 4-1-6 平和な社会生活の創造
- 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進
- 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備

### 令和元年度の取組（事業）

- 地区推進体制整備事業
- 公民館運営事業
- 生涯学習推進事業
- 人権文化創造事業
- 家庭教育支援事業
- 視聴覚教育事業
- 公民館整備事業
- 社会教育施設改修事業
- 市民活動センター管理運営事業

- 4-2-1 中央図書館の活用
- 4-2-2 中央館と地域館とのネットワークの構築
- 4-2-3 図書資料や視聴覚資料の充実
- 4-2-4 関係諸機関との連携
- 4-2-5 近隣自治体の図書館との連携

- 図書館管理運営事業
- 関係諸機関との連携事業

## 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

### 取組

- 5-1 文化財保存活用地域計画の策定・推進
- 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり
- 5-3 市民への文化財情報の提供
- 5-4 文化財に親しむための環境づくり
- 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備
- 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり
- 5-7 民俗資料の収集と展示
- 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動
- 5-9 市民に開かれた資料館の運営
- 5-10 市民の学習活動の支援

### 令和元年度の取組（事業）

- 文化財保存活用地域計画の策定・推進事業
- 日高遺跡保存整備事業
- 箕輪城跡保存整備事業
- 北谷遺跡保存整備事業
- 山名古墳群保存整備事業
- 「世界の記憶 上野三碑」関連事業
- 文化財管理事業
- 埋蔵文化財調査事業
- 多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業
- 上野国分尼寺跡範囲確認調査事業
- 文化財調査事業
- 歴史民俗資料館運営事業
- 観音塚考古資料館運営事業
- かみつけの里博物館運営事業
- 多胡碑記念館運営事業
- 吉井郷土資料館運営事業
- 埋蔵文化財センター整備事業

## II 教育委員の活動状況

年	月	日	曜日	行事名	場所
31	4	9	火	高崎経済大学附属高校入学式	経大附属高校
		23	火	教育委員会定例会	教育委員会室
元	5	16	木	高崎市学校保健会定期総会	市文化会館
		28	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	6	25	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	7	4	木	高崎市学校・警察連絡協議会視察研修	前橋家庭裁判所
		30	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	8	9	金	人権教育講演会	音楽センター
		27	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	9	24	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	10	10	木	高崎市学校保健研究発表会	市文化会館
		20	日	高崎マーチングフェスティバル観覧	シンフォニーロード他
		29	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	11	13	水	新任市町村教育委員研修会及び群馬県市町村教育委員会連絡協議会全体研修会	伊勢崎市境総合文化センター
		14	木	高崎市学校保健大会	市文化会館
		18	月	教育委員会定例会	教育委員会室
	12	19	木	総合教育会議	庁議室
2	1	12	日	高崎市成人式	音楽センター
		21	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	2	6	木	教育委員会定例会	教育委員会室
		17	月	高崎市学力向上推進会議・全体会	31会議室
	3	17	火	教育委員会定例会	教育委員会室



### Ⅲ 会議実績


日 時	議 案
平成 31 年 4 月 23 日(火) 午後 2 時～	1 高崎市立図書館条例施行規則の一部改正について
令和元年 5 月 28 日(火) 午後 2 時～	1 令和元年度高崎市一般会計補正予算（6 月議会提出分）教育費見積書の提出について 報告 ・第 7 回高崎学検定及び第 6 回高崎学検定解説ブックについて ・選挙に伴う高崎駅市民サービスセンター図書コーナーの業務内容の変更について
6 月 25 日(火) 午後 2 時～	1 臨時代理の承認について（高崎市立高崎経済大学附属高等学校令和 2 年度使用教科用図書の採択） 2 高崎市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会委員の委嘱について 3 高崎市社会教育委員の委嘱について 4 高崎市公民館運営審議会委員の委嘱について
7 月 30 日(火) 午後 2 時～	1 臨時代理の承認について（訴えの提起） 2 臨時代理の承認について（訴えの提起） 3 臨時代理の承認について（訴えの提起） 4 臨時代理の承認について（訴えの提起） 5 臨時代理の承認について（訴えの提起） 6 臨時代理の承認について（訴えの提起） 7 高崎市立幼稚園規則及び高崎市立幼稚園保育料等徴収条例施行規則の一部改正について 8 令和 2 年度使用教科用図書の採択について
8 月 27 日(火) 午後 2 時～	1 臨時代理の承認について（訴えの提起） 2 高崎市立幼稚園保育料等徴収条例等の一部改正について 3 令和元年度高崎市一般会計補正予算（9 月議会提出分）教育費見積書の提出について 報告 ・高崎市いじめ防止こども会議の開催結果について
9 月 24 日(火) 午後 2 時～	1 令和元年度教育委員会の点検・評価報告書の決定について 2 高崎市文化財保護賞候補者の推せんについて 3 令和元年度末県費負担教職員人事異動方針について 報告 ・令和元年度西部ブロック公民館研究集会兼高崎市公民館研究集会の開催について ・令和元年度各種音楽コンクール等の実績について ・令和元年度中体連総合体育大会の結果について


10月29日(火) 午後2時～	報告 ・令和元年度優良公民館群馬県教育委員会表彰の受賞について
11月18日(月) 午後5時30分～	1 地方公務員法及び地方自治法の改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について 2 令和元年度高崎市一般会計補正予算（12月議会提出分）教育費見積書の提出について 報告 ・令和元年度生涯学習フェスティバルの開催について ・第7回高崎学検定の実施結果について ・第26回群馬県高等学校総合文化祭における実績について
令和2年 1月21日(火) 午後2時～	1 臨時代理の承認について（訴えの提起） 2 臨時代理の承認について（訴えの提起） 3 高崎市文化財調査委員の委嘱について 4 小学校副読本（令和2年度～令和5年度使用）の採択について 5 令和2年度高崎市一般会計予算教育費見積書の提出について 報告 ・令和元年度優良PTA群馬県教育委員会表彰の受賞について ・令和元年度優良公民館文部科学大臣表彰の受賞について ・令和元年度小・中・特別支援学校卒業式の日程について
2月6日(木) 午後2時～	1 令和元年度高崎市一般会計補正予算（3月議会提出分）教育費見積書の提出について 2 高崎市立学校の教育職員の勤務時間の上限に関する指針の策定について 3 令和2年度高崎市教育行政方針の設定について 4 県費負担教職員の人事について 報告 ・令和元年度高崎市教育センター「春の教育セミナー」の開催について
3月17日(火) 午後2時～	1 臨時代理の承認について（県費負担教職員の人事） 2 臨時代理の承認について（高崎市立小学校、中学校及び特別支援学校管理運営規則の一部を改正する規則） 3 高崎市教育委員会職員の勤務時間等の特例等に関する規則及び高崎市立青少年補導センター設置条例施行規則の一部改正等について 4 高崎市学校運営協議会規則の一部改正について 5 独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金に関する規則の一部改正について 6 職員の人事について

## IV 点検・評価結果

### 点検・評価シート

施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《義務教育までの教育に関する取組》	担当課
		教職員課 学校教育課 教育センター
取組	1-1-1 教育機関の連携強化 1-1-2 学力向上への取組 1-1-3 いじめ対策の更なる強化 1-1-4 ゆとりある創造的な教育 1-1-5 家庭地域との連携強化 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上 1-1-7 特別支援教育の充実 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進	


事業名	幼・保・小連携推進事業（取組 1-1-1）													
事業の目的	公私立の別なく、幼稚園、保育所（園）、認定こども園の連携を深めて幼児教育の充実を図るとともに、幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校の連携を深め、子どもたちが幼稚園や保育所（園）、認定こども園から小学校への円滑な移行ができるようにする。													
実施状況	<p>全公立・私立幼稚園、保育所（園）、認定こども園、小学校で組織する幼保小連絡協議会では、市内を13ブロックに分け、公開保育・授業や保育・授業研究会、実技研修会、教育講演会等を実施した。</p> <p>◆研修会等参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>1,200人</td> <td>1,090人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>1,200人</td> <td>1,087人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,090人</td> <td>1,035人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成29年度	1,200人	1,090人	平成30年度	1,200人	1,087人	令和元年度	1,090人	1,035人	 <p>幼保小実技研修会の様子</p>
年度	目標	実績												
平成29年度	1,200人	1,090人												
平成30年度	1,200人	1,087人												
令和元年度	1,090人	1,035人												
評価検証	<p>幼保小連絡協議会では、実技研修会、教育講演会、ブロック別研修会（各ブロックで行っている公開保育・授業と授業研究会）を実施し、公私立の別なく保育・教育について協議し、職員間の交流を図るとともに、3歳児から小学校までの発達段階に応じた保育・教育のあり方について研修することができた。</p> <p>特に、実技研修会では、幼児期の運動的な遊びを小学校での運動遊び、体育科指導に連携していくことの大切さについて研修することができた。また、幼稚園、保育所（園）や認定こども園と小学校間での引き継ぎ資料を共通化し、小一プロブレムの解消と円滑な接続に向け、スタートカリキュラムの充実を図っている。</p>													
今後の方針	<p>幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の連携は、今日的教育課題で重要性が大きい。幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の職員が一同に会し、互いに理解し合う機会をもち、交流を深めたり、研修会を実施したりすることができるよう、今後も引き続き事業を推進し、幼児教育の充実に努める。</p>													

事業名	子どもの学ぶ意欲向上事業（取組 1-1-2）								
事業の目的	確かな学力の向上を図るために、授業計画を工夫し、子どものよさを生かして、子どもがわかる授業づくりを充実する。								
実施状況	<p>少人数指導や習熟度別指導、ティームティーチングなど指導形態の工夫を行い、基礎・基本の定着を図るとともに、教科指導助手等を活用しながら、きめ細かな指導の充実に努めた。</p> <p>◆「授業がわかる」と答えた児童生徒が 8割以上いる学校の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 591 826 786"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> 	年度	実績	平成 29 年度	99%	平成 30 年度	100%	令和元年度	100%
年度	実績								
平成 29 年度	99%								
平成 30 年度	100%								
令和元年度	100%								
評価検証	<p>教科指導助手は、7月の研修会で模擬授業を体験することを通して、その後の学習指導で個に応じたきめ細かな指導に役立てることができ、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が推進された。また、ICTなどの情報機器を使った授業が増えたことにより、子どもたちの学習への興味関心が向上しつつある。市学力調査や全国学力・学習状況調査の結果から、基礎的・基本的な知識・技能の習得については一定以上の成果が表れており、特に中学校の英語は全国トップレベルの結果となった。これらのことから、児童生徒に基礎・基本が身に付いているものと考えられる。</p>								
今後の方針	<p>確かな学力の向上は本市学校教育の重点課題である。単元構想、学習過程スタンダードを生かした「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた、子どもが主体の授業づくりを推進し、児童生徒の基礎学力と学ぶ意欲の向上に努める。</p> <p>また、学力調査の結果を検証し、個に応じた指導など指導形態の工夫に努めていく。</p>								

事業名	児童生徒の学力補充事業（取組 1-1-2）																																																	
事業の目的	児童生徒の学力を確かなものにするため、授業時間以外にもさまざまな機会をとらえて学力補充に取り組む。																																																	
実施状況	<p>夏季休業を利用して、英語に慣れ親しんだり、英語力を向上したりすることを目的に、小学生を対象とした「イングリッシュフェスタ」と中学生を対象とした「イングリッシュサマースクール」、「イングリッシュサマーキャンプ」を開催した。また、2学期中の日曜日を利用して、数学への興味・関心を高めることを目的に、中学生を対象とした「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座を8日間開催した。</p> <p>◆イングリッシュフェスタ参加児童数</p> <table border="1" data-bbox="367 622 922 828"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>200 人</td> <td>140 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>150 人</td> <td>129 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>150 人</td> <td>138 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆イングリッシュサマースクール参加生徒数</p> <table border="1" data-bbox="367 878 922 1084"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>60 人</td> <td>42 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>60 人</td> <td>79 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>60 人</td> <td>96 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆イングリッシュサマーキャンプ参加生徒数</p> <table border="1" data-bbox="367 1133 922 1339"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>30 人</td> <td>30 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>30 人</td> <td>30 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>30 人</td> <td>30 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック参加生徒数</p> <table border="1" data-bbox="367 1388 922 1594"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>70 人</td> <td>58 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>60 人</td> <td>55 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>60 人</td> <td>67 人</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	平成 29 年度	200 人	140 人	平成 30 年度	150 人	129 人	令和元年度	150 人	138 人	年度	目標	実績	平成 29 年度	60 人	42 人	平成 30 年度	60 人	79 人	令和元年度	60 人	96 人	年度	目標	実績	平成 29 年度	30 人	30 人	平成 30 年度	30 人	30 人	令和元年度	30 人	30 人	年度	目標	実績	平成 29 年度	70 人	58 人	平成 30 年度	60 人	55 人	令和元年度	60 人	67 人
年度	目標	実績																																																
平成 29 年度	200 人	140 人																																																
平成 30 年度	150 人	129 人																																																
令和元年度	150 人	138 人																																																
年度	目標	実績																																																
平成 29 年度	60 人	42 人																																																
平成 30 年度	60 人	79 人																																																
令和元年度	60 人	96 人																																																
年度	目標	実績																																																
平成 29 年度	30 人	30 人																																																
平成 30 年度	30 人	30 人																																																
令和元年度	30 人	30 人																																																
年度	目標	実績																																																
平成 29 年度	70 人	58 人																																																
平成 30 年度	60 人	55 人																																																
令和元年度	60 人	67 人																																																
評価検証	<p>A L T（英語指導助手）や数学専門教師を活用することで、各事業の内容の充実を図ることができた。「イングリッシュサマースクール」は、A L Tと十分に話すことができるよう形態や内容の見直しを行った結果、参加生徒数が増えた。「イングリッシュサマーキャンプ」は、昨年度に引き続き、抽選になるほどの申し込みがあった。（87名）</p> <p>事業に参加した児童生徒からは、英語や数学の学習に対する高い意欲が伺えた。</p>																																																	
今後の方針	<p>教科の学習に興味・関心をもたせ、学力を更に伸ばしていくことは、確かな学力の向上を目指す本市の重点課題である。各事業の内容の充実を図るとともに、事業を更に周知することや魅力ある講師をそろえることで、より多くの児童生徒が目的をもって事業に参加し、児童生徒の学力向上につながるよう努めたい。</p>																																																	



イングリッシュサマーキャンプの様子

事業名	英語教育指導事業（取組 1-1-2）																								
事業の目的	英語に興味や関心をもち、英語学習に意欲的に取り組む児童生徒を育成するため、ALT（英語指導助手）を招致し、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。																								
実施状況	<p>ALTとして直接雇用、JET-ALTを84人任用し、小学校58人、中学校25人、高等学校1人を配置し、英語を通したコミュニケーション能力の育成に努めた。</p> <p>◆ALTの配置数</p> <table border="1" data-bbox="367 577 927 775"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>ALTを活用した中学校での授業の様子</p> <p>◆ALTによる延べ授業時間数</p> <table border="1" data-bbox="367 871 951 1068"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>49,770時間</td> <td>50,192時間</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>47,300時間</td> <td>50,062時間</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50,192時間</td> <td>50,285時間</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成29年度	84人	84人	平成30年度	84人	84人	令和元年度	84人	84人	年度	目標	実績	平成29年度	49,770時間	50,192時間	平成30年度	47,300時間	50,062時間	令和元年度	50,192時間	50,285時間
年度	目標	実績																							
平成29年度	84人	84人																							
平成30年度	84人	84人																							
令和元年度	84人	84人																							
年度	目標	実績																							
平成29年度	49,770時間	50,192時間																							
平成30年度	47,300時間	50,062時間																							
令和元年度	50,192時間	50,285時間																							
評価検証	<p>平成29年度に全ての小学校、中学校、高等学校へのALTの配置が完了した。小学校では、担任等とALTとのチームティーチングを通して、英語や外国の文化・習慣に慣れ親しみ、コミュニケーションへの興味・関心の高揚を図った。中学校では、英語担当教員とALTとのチームティーチングを通して、生徒の実践的コミュニケーション能力や積極的にコミュニケーションをしようとする態度の育成とともに、英語担当教員の指導力の向上を図った。</p> <p>また、ALTの研修を充実させ、ALTの指導力の向上を通して英語教育の充実を図ることができた。</p>																								
今後の方針	<p>英語に興味・関心をもち、英語の活動や学習に意欲的に取り組み、英語を用いたコミュニケーション能力の基礎を身に付けた児童生徒を育成するために、ALTの研修を重ね、質の向上に努めるとともに、小中高等学校における英語教育の充実を図っていく。また、小学校における英語教育の教科化に対応して、新たに作成した小学5年生、6年生向けの指導計画を用いて、英語教育を適切に推進していく。</p>																								



事業名	高崎市学力アップ推進事業（取組 1-1-2・1-1-5）																													
事業の目的	各学校区において、地域運営委員会による学習会や9地区での中学生休日学習相談ステーションを開催し、保護者や地域、学生など地域の教育力を活用して、放課後や休日を利用した児童生徒の学力向上に向けた取組を推進する。																													
実施状況	<p>市内全ての小中学校区において、地域運営委員会を開催した。地域の教育力を活用し、児童生徒に対し、放課後や土曜日等に学習の時間と場所を提供し、各学校区で、学力向上対策の学習会を実施した。また、4月と2月には、地域運営委員会の代表を集めた全体会を実施し、取組状況について情報交換したり、それぞれの地域運営委員会で抱える課題について話し合ったりする場を設けた。更に、定期的に進捗状況を調査し、各地域運営委員会の状況を把握するとともに、令和2年度に向けた市全体での体制の整備を行った。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションについては、毎週日曜日の午後1時30分～4時30分の間、市内9つの公民館等を利用し、5月から2月末まで市内中学在校生なら誰でも参加できる学習の場を提供している。講師は大学生等のボランティアが務め、数学・英語の教科について学習の相談を行っている。</p> <p><b>◆地域運営委員会開催回数</b></p> <table border="1" data-bbox="370 976 778 1173"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>各校2～4回</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>各校2～4回</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>各校2～4回</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>◆学力アップ大作戦参加児童生徒数及び延べ開催回数</b></p> <table border="1" data-bbox="370 1272 970 1420"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>74,296人</td> <td>2,467回</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>71,074人</td> <td>2,420回</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>◆学力アップ大作戦参加ボランティア人数</b></p> <table border="1" data-bbox="370 1523 778 1671"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>20,638人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>20,470人</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>◆中学生休日学習相談ステーション生徒参加人数</b></p> <table border="1" data-bbox="370 1765 778 1912"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>458人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>440人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	平成29年度	各校2～4回	平成30年度	各校2～4回	令和元年度	各校2～4回	年度	実績		平成30年度	74,296人	2,467回	令和元年度	71,074人	2,420回	年度	実績	平成30年度	20,638人	令和元年度	20,470人	年度	実績	平成30年度	458人	令和元年度	440人
年度	実績																													
平成29年度	各校2～4回																													
平成30年度	各校2～4回																													
令和元年度	各校2～4回																													
年度	実績																													
平成30年度	74,296人	2,467回																												
令和元年度	71,074人	2,420回																												
年度	実績																													
平成30年度	20,638人																													
令和元年度	20,470人																													
年度	実績																													
平成30年度	458人																													
令和元年度	440人																													




学習会の様子




中学生休日学習相談ステーション

<p>評価検証</p>	<p>平成25年度から準備を始めた本事業は、地域運営委員会を中心に、学習ボランティアの確保、会場の環境整備、使用教材の検討等、具体的な細かい内容について整備し、26年度から全ての学校区で開始し、令和元年度も順調に推進することができた。児童生徒は、各学校区での学習会に多数参加することができた。また、全ての学校区の地域運営委員会の代表を集めて全体会を開催し、情報交換したことにより、それぞれの地域運営委員会が抱える課題の解決が図られた。更に、進捗状況を定期的に調査することで、各地域運営委員会への支援体制が確立できた。</p> <p>平成27年度から開始した中学生休日学習相談ステーションは、全ての地区で実施できるよう市内の公民館を数回ずつローテーションで実施したところ、会場によって参加数に差が見られた。28年度より7箇所の会場を固定し、2箇所はローテーションとして、9つの公民館等で実施した。30年度より9箇所の会場を全て固定した。その結果、行くべき場所がはっきり生徒に伝わり、参加・利用がしやすくなり、1回あたりの参加人数は事業開始以降毎年増加している。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>学力アップ大作戦は、平成29年度から、より地域の実情に応じて事業を実施できるよう、地域運営委員会に委託して事業を実施している。今後も、児童生徒の確かな学力の向上に向けて、地域や家庭との連携を更に進め、地域の教育力を生かして、取組内容の充実を図っていく。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションは、ボランティア講師の確保が急務であり、大学生を中心に呼びかけを行っていく。また、より多くの生徒が参加できるよう、各中学校からの積極的な呼びかけを求めていく。</p>



事業名	いじめ防止対策事業（取組 1-1-3）								
事業の目的	児童生徒が安心して生活できる学校づくりを目指して、いじめ防止に焦点を当てた教育活動を推進する。								
実施状況	<p>平成24年度から「いじめ防止プログラム」による取組を小中高一斉に行っており、教育委員会では、以下の取組等を推進してきた。</p> <p>○いじめ防止担当教諭研修会（年間2回）の実施 研修会では、学校生活における「いじめの芽」を早期に発見する視点や感性を磨く研修を実施した。</p> <p>○子どもを対象とした「いじめ防止子ども会議」「中学生リーダー研修会」 「いじめ防止子ども会議」では、いじめ防止担当教諭研修会の研修内容と同一の内容を子どもたちの目線から意見を出してもらい、教師と児童生徒が一緒にいじめ防止に取り組む連携を強めることができた。「中学生リーダー研修会」では、「オール高崎の絆を強め、いじめを防止しよう」のメッセージを市内全ての学校に動画を配信することができた。</p> <p>○いじめ防止缶バッジの作成・配布</p> <p>これらの取組を継続的に実施しながら、子どもたちがいじめのもつ問題性に気づき、いじめをなくすには自分たちはどうしたらよいかを考え、子ども一人ひとりの規範意識の醸成を図ることを通して、いじめの未然防止に結びつけている。</p> <p>◆いじめ認知後1か月以内の解消率</p> <table border="1" data-bbox="370 1167 778 1361"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>84%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>64%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>令和元年度いじめ防止子ども会議</p>	年度	実績	平成29年度	71%	平成30年度	84%	令和元年度	64%
年度	実績								
平成29年度	71%								
平成30年度	84%								
令和元年度	64%								
評価検証	<p>「いじめ防止担当教諭研修」と「いじめ防止子ども会議」の協議内容を同一にしたことで、学校内におけるいじめ防止の「教師と児童生徒の連携」が強化された。具体的には、学校生活の中で起こりうる「いじめの芽」について、教師と児童生徒の視点が合致する内容が挙げられ、教職員と児童生徒がともに「いじめの芽」を早期に発見できる環境がイメージできた。</p> <p>また、「中学生リーダー研修会」で作成したDVD「オール高崎の絆を強め、いじめを防止しよう」を全校に配布したことで、全校児童生徒が視聴し、いじめ防止に向けての意識を一つにまとめ高めることができた。児童生徒集会などで繰り返し視聴することで、いじめ防止の取組を継続していく効果も得られると考える。</p>								


<p>今後の方針</p>	<p>いじめ防止の取組を形骸化しないためには「視覚化」が必要である。令和元年度の取組は、協議した内容を「紙面」「映像（DVD）」として視覚化したことで、教職員や児童生徒にも同様のイメージをもたせることができた。これらを活用することで、保護者や地域の方にも「いじめ防止」に向けての同様のイメージをもってもらえることができ、学校だけでなく地域でいじめ防止に取り組む環境が構築できるものとする。</p> <p>今後もインターネット上の表面化しにくい事象や、発達に障害を抱えた子どもがかかわる事象、海外から帰国した子どもや外国人の子どもがかかわる事象、性同一性障害や性的指向・性自認にかかわる事象、災害により被災した子ども又は避難している子どもに対する事象、新型コロナウイルス感染症にかかわる事象等のいじめの未然防止及び早期発見・早期解消のために、これらの内容に関する教職員研修をより充実させていきたい。</p>
--------------	--

事業名	やるベンチャーウィーク推進事業（取組 1-1-4）																				
事業の目的	生きる力、豊かな心を育成するため、中学2年生を対象に地域や自然の中での職場体験や福祉ボランティア体験など、生徒の関心に応じた体験活動を実施する。																				
実施状況	<p>市内全ての中学2年生を対象とし、自己の生き方を探求する場として、月曜日から金曜日までの連続した5日間、延べ1,090事業所において、キャリア教育の考え方を取り入れながら、職場体験や福祉・ボランティア体験、地域の文化体験などの活動を実施した。</p> <p>◆参加生徒数</p> <table border="1" data-bbox="367 604 981 806"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>3,260人</td> <td>3,240人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>3,215人</td> <td>3,114人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,192人</td> <td>3,109人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="367 896 774 1097"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>99%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>やるベンチャーでの活動の様子</p>	年度	目標	実績	平成29年度	3,260人	3,240人	平成30年度	3,215人	3,114人	令和元年度	3,192人	3,109人	年度	実績	平成29年度	99%	平成30年度	99%	令和元年度	99%
年度	目標	実績																			
平成29年度	3,260人	3,240人																			
平成30年度	3,215人	3,114人																			
令和元年度	3,192人	3,109人																			
年度	実績																				
平成29年度	99%																				
平成30年度	99%																				
令和元年度	99%																				
評価検証	<p>参加した生徒3,109人を対象に行った実施後のアンケートでは参加生徒の99%が目標を達成できたと感じている。また、活動を通して「働く・活動することの大変さ」、「挨拶や礼儀・マナーの大切さ」、「働いている人の使命感や責任感」、「働く・活動することの楽しさ」を学べたと答えている。「やるベンチャーウィーク」での体験活動を実施したことは、礼儀正しさや働くことの意義など自己の生き方を探求する場として有効であった。</p>																				
今後の方針	<p>地域や事業所の人々と触れ合う中で、人間性や社会性、将来に向けた夢等を育むために実施されている事業である。今後も地域や事業所と連携して、職場体験や農業体験、福祉ボランティア体験、地域の文化体験等を推進し、「生きる力」、「豊かな人間性や社会性」の育成を図っていく。</p>																				

事業名	「気になる子」対策事業（取組1-1-4）																				
事業の目的	幼稚園において特別な支援を必要とする「気になる子」の教育環境の充実を図り、きめ細やかな教育に対応するための各園の取組を支援する。																				
実施状況	<p>気になる子対策補助金（私立幼稚園）</p> <p>市内の私立幼稚園に対し、以下のとおり助成した。認定こども園に移行した幼稚園があるため、園数は減少している。</p> <p>◆助成した園数と金額</p> <table border="1" data-bbox="370 488 1082 683"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>園数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>19園</td> <td>15,540,000円</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>15園</td> <td>12,600,000円</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>12園</td> <td>9,960,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校支援員の配置（公立幼稚園）</p> <p>幼児一人ひとりが楽しく有意義に園生活が送れるよう、支援を必要とする幼児に寄り添ったり、学級又は学年全体の中で困っている幼児の援助をしたりと各園の実態に応じ、活用されている。</p> <p>◆学校支援員配置数</p> <table border="1" data-bbox="370 969 798 1164"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	園数	金額	平成29年度	19園	15,540,000円	平成30年度	15園	12,600,000円	令和元年度	12園	9,960,000円	年度	実績	平成29年度	12人	平成30年度	12人	令和元年度	12人
年度	園数	金額																			
平成29年度	19園	15,540,000円																			
平成30年度	15園	12,600,000円																			
令和元年度	12園	9,960,000円																			
年度	実績																				
平成29年度	12人																				
平成30年度	12人																				
令和元年度	12人																				
評価検証	<p>私立幼稚園における「気になる子」への対応として、教職員の配置人数の増員や少人数クラス編成等が行われており、保育環境の充実が図られている。</p> <p>公立幼稚園では、学校支援員の活用により、特別な支援を必要とする幼児の園生活上の問題解決と遊びや生活指導の充実が図られた。教員以外の人員配置により、園の実情に応じた必要な形で幼児への支援がなされている。</p>																				
今後の方針	<p>障害の有無にかかわらず、一人ひとりの幼児に応じた支援や指導の必要性及び重要性が増している。今後も引き続き、本事業を実施し、私立幼稚園における保育環境の充実を図っていく。また、公立幼稚園においては、学校支援員の計画的な活用や資質の向上を図っていく。</p>																				

事業名	読書活動推進事業（取組1-1-4）																		
事業の目的	<p>学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能を充実させるために、全小・中・特別支援学校に学校図書館指導員を配置し、学校での読書活動を支援し、学校図書館を活用した学習活動を推進する。</p>																		
実施状況	<p>平成20年告示の学習指導要領で、学校図書館への読書センター、学習・情報センターとしての機能がこれまで以上に求められたことを受け、23年度から各学校図書館の機能を更に高めるため、市の臨時職員として「学校図書館指導員」を全校に配置している。</p> <p>「学校図書館指導員」は、校長の指揮監督の下、学校図書館における図書の受入れ及び整理、児童生徒への図書の貸出し及び返却、学校図書館及び準備室の環境整備、読書活動の支援及びレファレンスなどを行っている。</p> <p>◆教員と学校図書館指導員が連携した授業の実施状況（令和元年度）</p> <table border="1" data-bbox="375 797 908 1144"> <thead> <tr> <th>教科名</th> <th>小学校 (全58校)</th> <th>中学校 (全25校)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>55校</td> <td>19校</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>34校</td> <td>6校</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>28校</td> <td>4校</td> </tr> <tr> <td>図工・美術</td> <td>16校</td> <td>6校</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>43校</td> <td>13校</td> </tr> </tbody> </table>  <p>「教員がおすすめする本」の掲示。掲示された本は貸出数が増加する傾向が見られる</p>	教科名	小学校 (全58校)	中学校 (全25校)	国語	55校	19校	社会	34校	6校	理科	28校	4校	図工・美術	16校	6校	総合	43校	13校
教科名	小学校 (全58校)	中学校 (全25校)																	
国語	55校	19校																	
社会	34校	6校																	
理科	28校	4校																	
図工・美術	16校	6校																	
総合	43校	13校																	
評価検証	<p>各学校においては、職員や図書委員によるおすすめ本の紹介を始め、ビブリオバトル、ブックトークなど学校図書館指導員を核として多岐にわたる取組が行われている。</p> <p>また、上記の表のとおり、教員と学校図書館指導員とが連携した授業も国語科や社会科、総合的な学習の時間を中心に行われており、学校図書館を活用した学習活動が多く为学校で見られるようになってきている。</p>																		
今後の方針	<p>平成29年告示の学習指導要領では、「学習・情報センター」としての役割がより一層求められるようになっている。また、複数の教科の学習指導要領で授業における新聞の活用が謳われている。今後も環境整備と情報提供を進めるとともに、学校図書館指導員の研修機会を更に充実させていきたい。</p>																		


事業名	学校・家庭・地域連携事業（取組 1-1-5）																												
事業の目的	学校評議員制度を活用し、地域住民や保護者、有識者などの意見を広く取り入れることによって、開かれた学校づくり、魅力ある学校づくりを推進していく。																												
実施状況	<p>開かれた学校づくり、魅力ある学校づくりを目的として、地域の方々、保護者、有識者から地域との連携のあり方など広く意見を聞くため、令和元年度は公募による評議員の人選を30校（園）が実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">◆学校評議員会出席者数</th> <th colspan="2">◆学校評議員会実施割合</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>2,184 人</td> <td>2,034 人</td> <td>平成 29 年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>2,100 人</td> <td>2,086 人</td> <td>平成 30 年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>2,100 人</td> <td>2,036 人</td> <td>令和元年度</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table>				◆学校評議員会出席者数			◆学校評議員会実施割合		年度	目標	実績	年度	実績	平成 29 年度	2,184 人	2,034 人	平成 29 年度	96%	平成 30 年度	2,100 人	2,086 人	平成 30 年度	96%	令和元年度	2,100 人	2,036 人	令和元年度	96%
◆学校評議員会出席者数			◆学校評議員会実施割合																										
年度	目標	実績	年度	実績																									
平成 29 年度	2,184 人	2,034 人	平成 29 年度	96%																									
平成 30 年度	2,100 人	2,086 人	平成 30 年度	96%																									
令和元年度	2,100 人	2,036 人	令和元年度	96%																									
評価検証	<p>公募による人選を実施した30校（園）をはじめ、市内各校で地域や保護者の代表、有識者等からなる学校評議員会を開催し、開かれた学校づくりや魅力ある学校づくりを目指し、広く意見を聞くことができた。また、多くの学校で学校評価のうち学校関係者評価にかかわっていただき、学校教育の改善・充実に向けて意見を聞くことができた。</p>																												
今後の方針	<p>地域と連携した教育の推進は、今日的な重要課題である。今後も引き続きこの事業を推進し、子どもたちに生きる力を育むため、学校・家庭・地域社会の連携を図っていく。</p>																												


事業名	学校教育力向上対策事業（取組 1-1-6）												
事業の目的	子どもたちの生きる力を育成するため、人権教育講演会、先進校調査研修、体験的教員研修等を開催し、教職員の質的向上を図る。												
実施状況	<p>令和元年8月9日、富岡法律事務所弁護士富岡恵美子氏と共愛学園前橋国際大学地域共生研究センター研究員前田由美子氏を講師として招き「女性の人権・子どもの人権～教育の視点を中心に～」という演題で市内全教職員を対象に人権教育講演会を開催した。</p> <p>先進校調査研修として、教諭3名が富山市内の小・中学校で6月19日から21日までの3日間研修を行った。先進校での研修を市内の教職員に還元するため、幼小中連絡協議会や校内研修等で報告を行った。</p> <p>先進校調査研修を今後の教育実践に生かすため、研修の成果を研修報告書としてまとめ、高崎市特別研修にて成果発表するとともに、高崎市教育センターホームページにて公開した。</p> <p>◆研修参加者数</p> <table border="1" data-bbox="371 831 946 1025"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>1,750人</td> <td>1,790人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>1,700人</td> <td>1,718人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,800人</td> <td>1,750人</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">人権教育講演会の様子</p>	年度	目標	実績	平成29年度	1,750人	1,790人	平成30年度	1,700人	1,718人	令和元年度	1,800人	1,750人
年度	目標	実績											
平成29年度	1,750人	1,790人											
平成30年度	1,700人	1,718人											
令和元年度	1,800人	1,750人											
評価検証	<p>人権教育講演会では、人権を理解し守っていくには、学習や教育は大事であり、学びによって解消されることが多くあると学んだ。何が正しいのかを知ることができれば自分の知識として人生に生かせることや、「弱者の視点」と「国際的な視点」の二つの視点が大切であることを教えていただいた。</p> <p>先進校調査研修では、中堅的な立場にある教員を県外の実践校で研修させることを通して、教員としての資質・能力の向上を図るとともに、研修の成果を学校・園経営や校・園内研修に生かすことができた。</p>												
今後の方針	本市の未来を担う子どもたちに生きる力を育成するため、教職員研修を質的に充実させ、教職員の資質向上を図っていく。												



事業名	通級指導教室推進事業（取組1-1-7）																								
事業の目的	支援を必要とする児童生徒に通級指導教室において、障害の軽減・改善に向けた指導を実践する。また、保護者や担任への相談活動を充実していく。																								
実施状況	<p>心身に軽度の障害（言語、聴覚、情緒、LD、ADHD、自閉症スペクトラム等の発達障害）がある幼児、児童生徒に対して、障害の程度や特質等を把握し、その軽減と改善を図るための指導・援助を市内6教室（中央教室、中居教室、金古教室、下室田教室、城山教室、堤ヶ岡分室）で実施した。</p> <p>通級児童生徒数の増加に伴い、令和元年9月より金古小学校に堤ヶ岡分室を新設した。</p> <p>◆改善により退級した児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>76人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>77人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆通級児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>中学生</th> <th>小学生</th> <th>幼児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>67人</td> <td>499人</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>68人</td> <td>572人</td> <td>51人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>80人</td> <td>544人</td> <td>57人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	平成29年度	76人	平成30年度	66人	令和元年度	77人	年度	中学生	小学生	幼児	平成29年度	67人	499人	45人	平成30年度	68人	572人	51人	令和元年度	80人	544人	57人
年度	実績																								
平成29年度	76人																								
平成30年度	66人																								
令和元年度	77人																								
年度	中学生	小学生	幼児																						
平成29年度	67人	499人	45人																						
平成30年度	68人	572人	51人																						
令和元年度	80人	544人	57人																						
評価検証	<p>通級による指導により、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて、障害の軽減・改善のための指導が行われた。通常の学級における授業においてもこの指導の効果が期待できる。</p> <p>また、金古小学校に堤ヶ岡分室を新設したことにより、それまで中央教室に通室していた倉渚中学校・箕郷中学校・群馬中央中学校・群馬南中学校・榛名中学校の生徒が、堤ヶ岡分室に通室できるようになった。生徒が通級指導教室に通いやすくなったとともに、子ども一人ひとりに対し、きめ細かな指導が可能になった。</p>																								
今後の方針	<p>通常学級に在籍する心身に軽度の障害（言語・聴覚・情緒・LD・ADHD・自閉症スペクトラム等の発達障害）のある児童生徒で通級の指導を望む数は年々増加している。今後もこの事業を推進することで、特別な支援を必要とする児童生徒の障害の軽減・改善を図っていく。</p> <p>令和2年度からは堤ヶ岡分室を堤ヶ岡教室として独立させ、個別指導を中心とした特別の指導をよりきめ細かに行っていく。</p>																								



事業名	教育調査研究・研修事業（取組 1-1-8・1-1-9）																				
事業の目的	学校教育に関連するさまざまな教育課題に対する調査研究や課題解決に向けた研修を実施し、教職員の資質の向上を図る。																				
実施状況	<p>高崎市教育センター教職員研修基本構想に基づき、法定研修（初任者研修、中堅教諭資質向上研修）のほか、2年目研修、3年目研修、5年目研修、15年目研修、20年目研修、情報管理研修、校内研修主任研修、新任生徒指導主任・主事研修、学力向上研修、OJT推進リーダー研修、特別支援教育研修、人権教育研修、学校経営研修、夏季特別研修、夏季パソコン研修等を実施した。</p> <p>◆研修への参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>6,200 人</td> <td>7,435 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>7,300 人</td> <td>6,924 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>7,500 人</td> <td>6,878 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「充実した研修内容である」と答えた受講者数の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>2年目経験者研修講座</p>	年度	目標	実績	平成 29 年度	6,200 人	7,435 人	平成 30 年度	7,300 人	6,924 人	令和元年度	7,500 人	6,878 人	年度	実績	平成 29 年度	95%	平成 30 年度	95%	令和元年度	96%
年度	目標	実績																			
平成 29 年度	6,200 人	7,435 人																			
平成 30 年度	7,300 人	6,924 人																			
令和元年度	7,500 人	6,878 人																			
年度	実績																				
平成 29 年度	95%																				
平成 30 年度	95%																				
令和元年度	96%																				
評価検証	研修の参加者数は6,878人であり、目標の92%の達成率である。受講後のアンケートでは96%の講座受講者が、研修内容に満足していると答えている。																				
今後の方針	研修のニーズを的確に把握し、人材育成研修システムに基づいた質の高い研修講座を実施することで、教職員の資質の向上をより図っていく。																				

事業名	適応指導教室推進事業（取組 1-1-8）								
事業の目的	不登校児童生徒を対象に学習指導や体験活動、定期的な保護者への面談、在籍校との連携等を実施し、学校復帰及び社会的自立を図る。								
実施状況	<p>市内 8 教室において、指導員（嘱託職員） 19 人とボランティア相談員 7 人で、学校・保護者と連携を図りながら、不登校児童生徒の学校復帰及び社会的自立を目指し、各教室での学習指導、カウンセリングや、合同行事である野外炊飯やものづくり体験学習、社会科体験学習等の体験活動などの適応指導を行った。</p> <p>◆週一日以上学校へ登校できた児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>21 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>36 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>28 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>社会科体験学習</p>	年度	実績	平成 29 年度	21 人	平成 30 年度	36 人	令和元年度	28 人
年度	実績								
平成 29 年度	21 人								
平成 30 年度	36 人								
令和元年度	28 人								
評価検証	令和元年度市内小中学校の不登校児童生徒 604 人のうち、94 人が適応指導教室へ通室し、28 人が学校へ復帰することができた。								
今後の方針	適応指導教室で子どもの支援にあたる指導員の研修の充実と小・中学校との連携を図り、子どもと保護者の心に寄り添ったスキルの高いきめ細かい支援を行う。								

点検・評価シート

施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《高崎経済大学附属高等学校に関する取組》	担当課
		高崎経済大学 附属高等学校
取組	1-2-1 確かな学力の確立 1-2-2 キャリア教育の推進 1-2-3 国際理解教育の推進	

事業名	学力向上推進事業（取組1-2-1）																						
事業の目的	確かな学力の確立のために、少人数学級による授業やシラバスに沿った授業を行うとともに、発展的・対話的な深い学びを実現するための時間を確保することで、中学校における普通教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じた高度な普通教育を行う。また、教員の授業指導力向上セミナー派遣等の取組を行い、授業改善による確かな学力の向上を図る。																						
実施状況	<p>全学級が35人を基本としたクラス編成を行うとともに、選択制を取り入れた教育課程を編成し、発展的・補足的な学習を行った。また、シラバスに4回の定期考査の範囲も明記し、校訓にも謳われている「自学自習」の学習の目安として生徒に提示した。</p> <p>芸術コースの音楽系・美術系の生徒には、教員4人の他に23人の非常勤講師による専門教育を実施するとともに個別指導の充実を図っている。</p> <p>各教科から8名の教員が、予備校の主催する教員授業力向上セミナーに参加した。</p> <p>◆セミナー等への派遣が「役に立った」と答えた教員の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆学習内容が自分の進路や社会生活に役立つと考えている生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>81%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆基礎的・基本的な内容を身に付けることができたと考えている生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆授業で話し合ったり、自分の考えを発表したりしている生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	平成30年度	100%	令和元年度	100%	年度	実績	平成30年度	76%	令和元年度	81%	年度	実績	令和元年度	95%	年度	実績	平成30年度	75%	令和元年度	80%
年度	実績																						
平成30年度	100%																						
令和元年度	100%																						
年度	実績																						
平成30年度	76%																						
令和元年度	81%																						
年度	実績																						
令和元年度	95%																						
年度	実績																						
平成30年度	75%																						
令和元年度	80%																						

評価検証	<p>シラバスに沿った授業を確実に行うことで主体的な学習態度の育成に結びつけることができた。グループ学習やペア学習等を取り入れた言語活動重視の授業や、実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、引き続き、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・表現力の向上を図ることができた。</p> <p>芸術コースの個別指導の充実により、生徒一人ひとりの感性を高めることができた。また、教員の授業力向上セミナー参加では、教科指導力が向上し、実践的な技術を身に付けることができた。</p> <p>生徒へのアンケート結果から、今後も、実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、学習内容が自分の進路や社会生活に役立つことを認識させながら、更に生徒が主体的に学習することに充実感をもてるようにするための取組を推進する必要があると考えられる。</p>
今後の方針	<p>思考力、判断力、表現力はもちろんのこと、学ぶ意欲や自ら学ぶ姿勢などを含めた確かな学力を育成するため、引き続き、各事業の推進を図る。</p>

事業名	キャリア教育推進事業（取組1-2-2）																				
事業の目的	<p>地域、産業界、大学等との連携を図り、体験活動を中心とした学習を積極的に取り入れることで、社会事象に対する興味・関心を高め、知識をもとに思考・判断する力、表現する力を身に付けさせるとともに、人間関係形成能力や自己管理能力、課題解決力、キャリアプランニング力等の基礎的・汎用的能力を身に付けることができるようキャリア教育を推進する。</p>																				
実施状況	<p>企業や大学の見学、活躍している社会人や職業人を講師とした講演会や体験活動を実施した。また、高崎経済大学との高大連携においては、大学の講義を受講する機会や、大学のゼミに参加して大学生と一緒に活動する機会を設けた。</p> <p>◆キャリア教育に係る体験学習の実施回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>50回</td> <td>62回</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>44回</td> <td>54回</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>62回</td> <td>67回</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆体験学習が「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成29年度	50回	62回	平成30年度	44回	54回	令和元年度	62回	67回	年度	実績	平成29年度	100%	平成30年度	100%	令和元年度	100%
年度	目標	実績																			
平成29年度	50回	62回																			
平成30年度	44回	54回																			
令和元年度	62回	67回																			
年度	実績																				
平成29年度	100%																				
平成30年度	100%																				
令和元年度	100%																				
評価検証	<p>キャリア教育は、高校生活に目的意識をもたせ、成長を支える基盤・原動力にもなっている。</p> <p>地域、産業界や大学等と連携した体験活動を中心とした学習により、生徒が自己を見つめるとともに、人間関係形成や自己管理、課題解決、キャリアプランニング等における基礎的・汎用的能力を身に付けることができた。また、大学との連携において「大学における学び」を体験することで、生徒一人ひとりが将来の目標を明確にすることができた。</p>																				
今後の方針	<p>今後もキャリア教育の一層の充実に努めていく。</p>																				

事業名	国際教育推進事業（取組1-2-3）																				
事業の目的	<p>学習指導要領に基づいて達成されるべき英語力の指標として実用英語能力検定（英検）を利用しながら、高校卒業時に必要なレベルの英語力が身に付くようにする。</p> <p>また、海外研修等の海外における異文化体験を積むことで、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、同時代人としてのものの考え方や生活習慣、衣食住文化、社会制度や信条等を学び、異国の文化や伝統を尊重できる感覚を育成する。</p>																				
実施状況	<p>全校生徒が英検を受検する機会を設けた。</p> <p>◆英検準2級以上の取得者数(延べ人数)</p> <table border="1" data-bbox="368 622 914 824"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>670人</td> <td>867人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>800人</td> <td>849人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>880人</td> <td>803人</td> </tr> </tbody> </table> <p>海外派遣事業において、韓国研修には生徒14人を派遣し、姉妹校である高尺高校と交流した。なお、年度当初予定のあった米国（ボストン）での語学研修については、新型コロナウイルス感染症対応のため中止とした。更に、台湾研修にも生徒17人を派遣し、台湾企業や海外で事業展開をする日系企業の戦略等を現地で学習した。</p> <p>◆海外派遣事業に参加したことが「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 1111 754 1312"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成29年度	670人	867人	平成30年度	800人	849人	令和元年度	880人	803人	年度	実績	平成29年度	100%	平成30年度	100%	令和元年度	100%
年度	目標	実績																			
平成29年度	670人	867人																			
平成30年度	800人	849人																			
令和元年度	880人	803人																			
年度	実績																				
平成29年度	100%																				
平成30年度	100%																				
令和元年度	100%																				
評価検証	<p>全ての生徒が英検を受検し、より上位の資格取得に取り組むことができた。</p> <p>韓国研修では、高尺高校との交流、ソウル市内見学等の異文化体験を通して、異国の文化や伝統を尊重する感覚を育成することができた。</p> <p>台湾研修では、台湾企業及び日系企業を複数訪問し、事業所の見学や経営者等へのインタビューを行った。これにより、経済活動のグローバル化を実感するとともに、異なる文化や価値観、社会制度への理解を深めることができた。</p>																				
今後の方針	<p>国際化する社会に対応できる生徒の育成を目指して、海外派遣に参加しようとする生徒を増やすとともに、海外派遣で得られた成果を他の生徒に広げようとする生徒を増やし、継続して国際教育の充実を図る。</p> <p>引き続き、大学の推薦入試等で合否判定の材料の1つとなる英検2級の取得を目指そうとする意欲の向上に努める。</p>																				

点検・評価シート

施策の視点	2 子どもたちの心身の健康と体力の向上	担当課
		健康教育課
取組	2-1 心と体の健康づくり 2-2 体力の向上とじょうぶな体づくり 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保 2-4 魅力ある学校給食づくり 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成	

事業名	児童生徒等健康管理対策事業（取組2-1）									
事業の目的	児童生徒等の健康の保持増進を図るため、疾病・異常を早期に発見し保健教育を実施し治療を促進する。健康診断をすることにより、自己の健康課題に気づき、自ら考え、行動し、心身ともに健康で明るい生活を送れるようにする。									
実施状況	幼児、児童、生徒及び教職員の健康管理の一環として、学校医等による健康診断及び専門機関による検診（貧血検査・尿検査・心臓検診・総コレステロール検査等）を実施し、その結果を受けて保健上必要な指導助言（治療勧告）や保健指導を行った。  ◆永久歯う歯及び歯肉炎等治療完了者率 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">平成30年度</td> <td>小学校 96.4%</td> </tr> <tr> <td>中学校 90.2%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">令和元年度</td> <td>小学校 96.6%</td> </tr> <tr> <td>中学校 91.4%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	実績	平成30年度	小学校 96.4%	中学校 90.2%	令和元年度	小学校 96.6%	中学校 91.4%
年度	実績									
平成30年度	小学校 96.4%									
	中学校 90.2%									
令和元年度	小学校 96.6%									
	中学校 91.4%									
評価検証	健康診断・検査の受検率はほぼ100%であり、未受検者については入院等やむを得ない事情のものがほとんどである。各学校園においては、健康診断や検査の結果を受け、事後の保健指導を行っている。また、学校医等の協力を得て、行事前に臨時の健康診断や経過観察歯科健康診断を実施するなどの健康管理対策をとっている。									
今後の方針	学校等から働きかけをすることにより、保護者の協力を得て対象者全員の受検を実現する。また、学校医等と連携し、健康診断の結果を児童生徒等の健康管理や保健教育に活用し、児童生徒等の心身ともに健康な生活の実現を目指す。									



事業名	学校保健充実事業（取組 2-1）																		
事業の目的	助産師による「命の大切さ」出前授業や専門家による性教育講演会、薬物乱用防止講演会、「エイズデーin たかさき」への参加を実施し、豊かな人間性をはぐくみ、生涯を通じて健康な生活を営む児童生徒の育成を図る。																		
実施状況	<p>豊かな心と健康な体づくりの一環として、健康教育の今日的課題に対応するため、専門家の講演や体験活動により、正しい知識を身に付け、自己の日常の生活に生かせるよう、学校において保健計画に位置づけられた継続的な実施を目指している。助産師会、ボランティア団体、学校医等の協力により、毎年多くの学校で実施できている。</p> <p>◆助産師による授業・性教育講演会実施校数</p> <table border="1" data-bbox="365 676 1112 817"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>50 校</td> <td>55 校</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50 校</td> <td>53 校</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆薬物乱用防止講演会実施校数</p> <table border="1" data-bbox="365 909 1112 1050"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>65 校</td> <td>57 校</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>65 校</td> <td>55 校</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 30 年度	50 校	55 校	令和元年度	50 校	53 校	年度	目標	実績	平成 30 年度	65 校	57 校	令和元年度	65 校	55 校
年度	目標	実績																	
平成 30 年度	50 校	55 校																	
令和元年度	50 校	53 校																	
年度	目標	実績																	
平成 30 年度	65 校	57 校																	
令和元年度	65 校	55 校																	
評価検証	<p>実施を希望する学校が増加している講師派遣事業については、予算維持とともに、実績の拡大に努めている。</p> <p>助産師でつくる『とらうべの会』による「命の大切さ」出前授業については、毎年継続して実施希望の学校が多いため、とらうべの会の先生方と日程を調整し、毎年多くの学校で実施できている。</p>																		
今後の方針	<p>性教育、薬物乱用防止教育は、今日的かつ緊急的な課題であるため、受講学校数を増加できるよう多面的に働きかけていく。特に薬物乱用等の低年齢化に伴い、正しい知識と適切な判断ができるよう、小学校の薬物乱用防止教室の拡充を図り、保健所やライオンズクラブ等の関係機関と連携し、学校への支援を行いたい。</p> <p>また、予算等の関係から、隔年で実施する学校も多いが、より大きな成果を得られるように継続的な実施を働きかけていく。</p>																		

事業名	部活動充実事業（取組 2-1）																											
事業の目的	高崎市立中学校に部活動指導員や外部指導者を配置し、部活動の充実及び円滑な運営を図るとともに、部活動指導を行う教員の支援を行う。																											
実施状況	<p>高崎市内の各中学校 25 校に部活動指導員を配置することや各中学校のニーズに応じた外部指導者の派遣により、部活動の質的向上や教職員の負担軽減を図るとともに、「高崎市の部活動の運営について」の徹底を図り、各中学校の実情に合わせた望ましい部活動の推進に努めた。</p> <p>◆部活動指導員配置人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>25 人</td> <td>25 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>75 人</td> <td>59 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆運動部への外部指導協力者派遣事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>70 人</td> <td>57 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>70 人</td> <td>57 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>65 人</td> <td>45 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆教職員の負担軽減につながったと答える学校の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> <td>88%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 30 年度	25 人	25 人	令和元年度	75 人	59 人	年度	目標	実績	平成 29 年度	70 人	57 人	平成 30 年度	70 人	57 人	令和元年度	65 人	45 人	年度	目標	実績	令和元年度	100%	88%
年度	目標	実績																										
平成 30 年度	25 人	25 人																										
令和元年度	75 人	59 人																										
年度	目標	実績																										
平成 29 年度	70 人	57 人																										
平成 30 年度	70 人	57 人																										
令和元年度	65 人	45 人																										
年度	目標	実績																										
令和元年度	100%	88%																										
評価検証	部活動指導員の配置や運動部活動における外部指導者派遣により、部活動の指導や勤務時間の軽減、心理的負担の軽減等の教職員の負担軽減が図られるとともに、各種目の専門性を生かした部活動指導が行われ、部活動の質的向上に努めることができた。																											
今後の方針	部活動の充実と中学校教職員の部活動指導への負担軽減を図るため、今後も本事業を継続し、更なる部活動の質的向上と教職員の負担軽減に努める。 また、研修会等の実施により、部活動指導員や外部指導者の指導力の向上に努め、望ましい部活動の推進を図っていく。																											




事業名	学校体育充実事業（取組 2-2）															
事業の目的	生涯を通して運動に親しむ心を養うとともに、各種競技大会の開催や新体力テストの実施、中体連等への支援を行い、児童生徒の体力の向上に努める。															
実施状況	<p>運動を通して身に付けたい基本的技能や知識を明確にし、主体的に運動に親しむことができる授業づくりや新体力テストの実施を通して、自らの体力に関心をもち、進んで体力向上に取り組む児童生徒の育成に努めた。</p> <p>◆新体力テストの実施者数（小学5・6年生及び中学1～3年生）</p> <table border="1" data-bbox="379 465 1114 622"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>16,033人【実施率99%】</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>16,104人【実施率99%】</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「運動が好きである」「どちらかというと思う」と回答した児童の割合（小学5年生）</p> <table border="1" data-bbox="379 723 1114 880"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>93%</td> <td>90.5%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>93%</td> <td>90.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>小学校の各種大会（陸上・水泳）や体操演技会を通して、進んで運動に取り組む児童の育成に努めた。</p> <div data-bbox="360 994 1161 1290" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">小学校体操演技会</p> <p>中体連各大会における運営への協力や群馬県大会及び関東・全国大会における選手の派遣に向けた支援に努めた。</p>	年度	実績	平成30年度	16,033人【実施率99%】	令和元年度	16,104人【実施率99%】	年度	目標	実績	平成30年度	93%	90.5%	令和元年度	93%	90.9%
年度	実績															
平成30年度	16,033人【実施率99%】															
令和元年度	16,104人【実施率99%】															
年度	目標	実績														
平成30年度	93%	90.5%														
令和元年度	93%	90.9%														
評価検証	<p>学校訪問指導における体育授業参観を通して、目標を明確にし、目標達成に必要な基本的技能や知識を一斉指導で児童生徒全員に履修させ、身に付けた力をもとに自己の課題に主体的に取り組む授業が行われている。また、新体力テストが各校で適切に実施されるよう、マニュアルの作成や啓発に努めることができた。</p> <p>小学校の各種大会では、自己の目標を設定し、大会に向けた校内での練習を通して、できる喜びを味わうことで、運動に親しむ児童の育成を図ることができた。</p> <p>中体連の大会運営や選手の派遣等については、各学校や中体連のニーズに対応した支援を行うことができた。</p>															
今後の方針	<p>小学校の全教員を対象とした体育実技講習会や若手教員の教師力向上を図る研修会等により、児童が自己の目標をもって目標達成に向けた活動を主体的に取り組むことができるよう、更なる体育の授業改善を図る。</p> <p>また、全学年で実施している新体力テストの結果を活用し、学校課題を明確にし、解決に向けた取組の充実を図る。中体連と連携した取組の改善や充実を図り、生徒の自主的な活動を支援する体制づくりに努める。</p>															

事業名	交通教室事業（取組 2-3）																																				
事業の目的	交通法規や自転車実習による交通教室を開催し、自分の命は自分で守る交通安全教育を推進する。																																				
実施状況	<p>和田橋交通公園では、市内の小学3年生全員と、希望のある学校については他の学年も対象に「交通安全教室」を実施した。「交通事故ゼロ」を目指し、自転車の乗り方や交通ルールを中心に学習している。</p> <p>また、夏休みを利用して、自転車に乗れない小学1年生を対象に「親子自転車教室」を実施した。</p> <p>◆自転車事故発生率/交通事故総数(小学生)</p> <table border="1" data-bbox="368 622 1093 808"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>30% / 45 件</td> <td>46% / 57 件</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>30% / 45 件</td> <td>44% / 47 件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>30% / 45 件</td> <td>41% / 34 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆交通安全教室小学3年生受講者数(参加率)</p> <table border="1" data-bbox="368 898 1093 1084"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>3,440 人</td> <td>3,425 人 (99.6%)</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>3,227 人</td> <td>3,200 人 (99.2%)</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,097 人</td> <td>3,078 人 (99.4%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆親子自転車教室受講者数</p> <table border="1" data-bbox="368 1173 1093 1359"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>40 組</td> <td>29 組</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>40 組</td> <td>41 組</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>40 組</td> <td>35 組</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 29 年度	30% / 45 件	46% / 57 件	平成 30 年度	30% / 45 件	44% / 47 件	令和元年度	30% / 45 件	41% / 34 件	年度	目標	実績	平成 29 年度	3,440 人	3,425 人 (99.6%)	平成 30 年度	3,227 人	3,200 人 (99.2%)	令和元年度	3,097 人	3,078 人 (99.4%)	年度	目標	実績	平成 29 年度	40 組	29 組	平成 30 年度	40 組	41 組	令和元年度	40 組	35 組
年度	目標	実績																																			
平成 29 年度	30% / 45 件	46% / 57 件																																			
平成 30 年度	30% / 45 件	44% / 47 件																																			
令和元年度	30% / 45 件	41% / 34 件																																			
年度	目標	実績																																			
平成 29 年度	3,440 人	3,425 人 (99.6%)																																			
平成 30 年度	3,227 人	3,200 人 (99.2%)																																			
令和元年度	3,097 人	3,078 人 (99.4%)																																			
年度	目標	実績																																			
平成 29 年度	40 組	29 組																																			
平成 30 年度	40 組	41 組																																			
令和元年度	40 組	35 組																																			
評価検証	<p>小学生の自転車事故の主な原因は、一時停止不履行や前方不注意である。児童が自ら自分の命を自分で守ることや各学校が危機意識をもち継続的に実効性のある安全教育を実施できるよう、情報提供や支援に努めていく必要がある。</p> <p>小学3年生の交通安全教室では、映像資料を活用した交通ルールを学ぶことや自転車を正しく乗るための知識や技能の習得に向けた実技指導の充実に努めた。</p> <p>また、親子自転車教室では、自転車に乗れるよう指導するだけでなく、交通ルールやマナーなどの交通安全指導も行った。</p>																																				
今後の方針	<p>学校における日々の交通安全指導を核として、道路交通法を念頭に、自転車事故の防止に向けた交通ルールやマナーの指導の充実に努める。また、警察や交通安全協会などの関係諸機関と連携した交通安全指導を推進するとともに、家庭への啓発を行い、家庭と連携した交通事故防止に努める。</p> <p>和田橋交通公園の交通安全教室については、より効果的な交通安全教育が実践できるよう、指導方法や内容の改善に努める。</p>																																				

事業名	給食充実事業（取組 2-4）																								
事業の目的	学校給食において、地場農産物の積極的な活用や郷土料理の導入、栄養教諭・栄養士による食指導を実施することにより、児童生徒の健やかな成長と望ましい食習慣を形成していく。																								
実施状況	<p>新鮮で安全な食材の提供が可能となるだけでなく、地元の農産物生産者への支援、児童生徒の本市の農産物・農業への関心を高めることにも繋がることから、学校給食に地場農産物を積極的に使用している。また、児童生徒が食の重要性を知り、食について考えるきっかけとなるよう、栄養教諭・栄養士が給食時に教室を訪問して、献立や食材などに関する説明や食指導を行っている。</p> <p>◆給食における地場農産物使用率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>50%</td> <td>46.8%</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>50%</td> <td>47.4%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50%</td> <td>47.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆1ヶ月の栄養教諭・栄養士の給食時、教室訪問回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>18 回</td> <td>11 回</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>15 回</td> <td>11 回</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>15 回</td> <td>10 回</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 29 年度	50%	46.8%	平成 30 年度	50%	47.4%	令和元年度	50%	47.4%	年度	目標	実績	平成 29 年度	18 回	11 回	平成 30 年度	15 回	11 回	令和元年度	15 回	10 回
年度	目標	実績																							
平成 29 年度	50%	46.8%																							
平成 30 年度	50%	47.4%																							
令和元年度	50%	47.4%																							
年度	目標	実績																							
平成 29 年度	18 回	11 回																							
平成 30 年度	15 回	11 回																							
令和元年度	15 回	10 回																							
評価検証	給食における地場農産物使用率は、前年と同様であった。引き続き目標とする50%に到達するよう努めていきたい。また、栄養教諭・栄養士の給食時の教室訪問回数も目標に到達するよう努めていきたい。																								
今後の方針	<p>地場農産物の使用率は、気候の影響による農作物の生育・流通状況等、外的な要因の影響を受けることもあるが、仕入先の拡大や献立を更に工夫するなど、より多くの地場農産物が使用できるよう取組を進めていく。</p> <p>また、栄養教諭・栄養士が給食時に教室訪問を行えるよう、引き続き、各学校への働きかけや環境の整備を進めていく。</p>																								

事業名	給食運営事業（取組 2-4）															
事業の目的	安全・安心な給食を提供するため、調理器具等の更新を実施するとともに、食育の視点から給食残渣の削減に取り組む。															
実施状況	<p>調理器具等の状況を確認し、必要性の高いものから優先的に更新を行った。 各学校園における残渣から作られた堆肥量をもとに、年間の残渣を推定して一人一日分の残渣を算出した。</p> <p>◆児童生徒一日あたりの給食残渣</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>令和元年度目標</th> <th>令和元年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>43 g</td> <td>65 g</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>40 g</td> <td>42 g</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>59 g</td> <td>55 g</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>47 g</td> <td>44 g</td> </tr> </tbody> </table>	対象	令和元年度目標	令和元年度実績	幼稚園	43 g	65 g	小学校	40 g	42 g	中学校	59 g	55 g	特別支援学校	47 g	44 g
対象	令和元年度目標	令和元年度実績														
幼稚園	43 g	65 g														
小学校	40 g	42 g														
中学校	59 g	55 g														
特別支援学校	47 g	44 g														
評価検証	中学校及び特別支援学校の残渣は目標値より少なかった一方で、幼稚園では目標値よりかなり多く、小学校では目標値より少し多かった。															
今後の方針	安全・安心な給食を提供するために、引き続き、古い調理器具等の更新を行っていく。また、食育の面からも、給食残渣を更に削減できるよう努めていく。															


事業名	小学生自然体験活動事業（取組 2-5）									
事業の目的	<p>榛名湖畔の素晴らしい自然環境を活用し、登山や野外炊飯などの自然体験活動を実施し、小学生の生きる力、豊かな心を育成する。</p>									
実施状況	<p>榛名湖畔にある「榛名林間学校榛名湖荘」での集団宿泊体験学習を市内小学校全 58 校が実施した。具体的な活動内容としては、榛名神社から天神峠までの登山、火床を囲んでダンス等を楽しむキャンプファイア、かまどで羽釜を使ってご飯を炊きカレーを作る野外炊飯、桜やつつじの枝でスプーンを作るクラフト活動、榛名湖畔を一周して自然を満喫するウォークラリー等の自然体験を中心として体験活動を実施した。各学校が児童の実態に応じて工夫した活動に取り組み、充実した宿泊体験学習を行った。</p> <p>◆林間学校参加児童数</p> <table border="1" data-bbox="370 712 911 853"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>校数</th> <th>児童数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>58 校</td> <td>3,370 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>58 校</td> <td>3,441 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">野外炊飯の様子</p>	年度	校数	児童数	平成 30 年度	58 校	3,370 人	令和元年度	58 校	3,441 人
年度	校数	児童数								
平成 30 年度	58 校	3,370 人								
令和元年度	58 校	3,441 人								
評価検証	<p>本事業では、高崎市内の全 58 小学校の 5 年生が榛名湖畔での自然体験活動を通して、榛名地域の素晴らしい自然や文化財などに触れるとともに、地元の人々と触れ合うことで、子どもたちに生きる力と豊かな心を育むことができた。</p>									
今後の方針	<p>キャンプファイア場や野外炊飯施設等を生かしたプログラム等の充実を図り、児童が榛名地域の自然の素晴らしさを更に感じる事ができる事業としていく。</p>									



事業名	「健康教育」啓発事業（取組 2-1・2-2・2-3・2-4）
事業の目的	<p>「21世紀を担う元気なたかさきっ子」を育てるため、本市における健康教育（学校保健・学校体育・学校給食）の取組を紹介する健康教育フェアを開催し、学校園における実践の様子について、パネル展示等を通して広報することにより、学校・家庭・地域の連携の必要性を市民とともに考えていく。</p>
実施状況	<p>平成20年度より「健康教育フェア」を開催している。</p> <p>健康教育フェアでは、健康教育に関する学校の実践や学校給食について、また学校医・学校歯科医・学校薬剤師の活動をパネル展示等で紹介した。</p> <p>また、学校給食の紹介として試食コーナーを設け、学校給食を身近に考えてもらう機会を提供した。</p> <p>平成22年度より、市民の健康への関心を高めるため、軽スポーツや歯の健康チェック、簡易視力検査、目の体操、血圧測定等の体験コーナーを設けた。</p> <p>平成27年度より、パネル展示については市庁舎で実施し、軽スポーツや、パクパクゲーム、はてなボックス、食材つりゲームなどの体験コーナーは、健康課主催の「たかさき食育・健康フェスタ」の中で実施した。</p> <div data-bbox="1050 577 1436 900" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">健康教育フェア エイズパネル</p> <div data-bbox="375 1008 826 1339" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">パネル展示</p> <div data-bbox="928 1008 1380 1339" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">「たかさき食育・健康フェスタ」体験コーナー</p>
評価検証	<p>多くの市民に健康について関心をもってもらおうと、市庁舎1階ロビーにて展示コーナーを設けた。パネル展示については、市庁舎を訪れる幅広い層の市民に展示物を見ていただく機会となり、健康教育には、学校・家庭・地域の連携が重要であることを広めることができた。</p> <p>また、軽スポーツや健康チェック等の体験コーナーは、健康課主催の「たかさき食育・健康フェスタ」の中で実施し、もてなし広場で行われる高崎市農業まつりと同日開催とすることで、健康教育課のブースには686人（大人355人、子ども331人）と子どもからお年寄りまで幅広い世代の方に来場いただき、市民の健康への関心を高めることができた。</p>
今後の方針	<p>健康教育は、継続的な取組が大切であることから、幼稚園から高等学校まで幅広く働きかけていく。今後も市庁舎1階ロビーなど、多くの市民が訪れやすい会場で開催していく。パネル等の展示物の充実を図るとともに、多くの市民に来場してもらえよう、広報や催し物の工夫をしていく。</p>

点検・評価シート

施策の視点	3 安全で多機能な教育環境づくりの推進	担当課
		教育総務課 健康教育課 高崎経済大学 附属高等学校
取組	3-1 安全・安心な学校づくり 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり 3-3 地域性を発揮させた学校づくり 3-4 環境にやさしい学校づくり	

事業名	箕輪小学校校舎改築事業（取組3-1・3-2・3-3・3-4）					
事業の目的	老朽化した校舎の改築工事の実施					
実施状況	<p>耐力度調査の結果「改築が必要」と判定された校舎の改築工事を進めている。                  &lt;校舎改築のポイント&gt;                  ○市産木材を使用した、木造2階建ての校舎                  ○多様な学習活動に対応できる多目的スペース、少人数教室の整備                  ○屋根に太陽光発電を設置し、環境に配慮</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>第一期校舎(完成)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>第二期校舎(建設中)</p> </div> </div> <p>◆事業進捗率（事業費ベース）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>令和元年度目標</th> <th>令和元年度実績</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>70%</td> </tr> </table>		令和元年度目標	令和元年度実績	70%	70%
令和元年度目標	令和元年度実績					
70%	70%					
評価検証	全体的に計画どおり進捗している。					
今後の方針	<p>児童の安全確保に配慮し、計画的に改築工事を進める。</p> <p>◆事業進捗率（事業費ベース）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度目標</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>100%</td> </tr> </table>		令和元年度実績	令和2年度目標	70%	100%
令和元年度実績	令和2年度目標					
70%	100%					

事業名	学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園）（取組 3-1）
事業の目的	各学校園を巡回し、改修等の要望箇所を確認し、安全で快適な教育環境の維持管理を図る。
実施状況	「工事要望調査」等により、施設の状況を把握し、危険や不具合を感じる箇所の調査を行い、調査結果を基に外壁改修工事や教室の床改修工事等を実施した。
評価検証	施設の老朽化により各学校園からの要望も多くなってきているが、予算の範囲内で危険度の高いものから優先して改修を行った。 また、外壁改修工事や、教室床改修工事等を行い、校舎等の維持管理の向上に努めた。
今後の方針	各学校園からの要望や施設の点検結果を踏まえ、優先度の高いものから改修を行っていく。


事業名	学校施設整備事業（高等学校）（取組 3-1）
事業の目的	安全で快適な学習環境と、生徒が安心して学校教育活動に取り組める環境を創出するため、学校施設の計画的な整備や適切な維持管理に努め、高等学校教育の充実を目指す。
実施状況	施設の老朽化により補修箇所が年々増加しているため、危険な状態または学校運営上、重大な支障が生じる部位から優先的に補修を行った。
評価検証	予算の範囲内で、危険度及び必要性の高いものから優先して改修した。
今後の方針	学校施設のより一層の適切な維持管理に努めるとともに、必要な修繕工事等を優先度の高いものから実施していく。




事業名	学校体育施設開放事業（取組 3-2）												
事業の目的	生涯スポーツの普及と推進を図るため、各種団体のスポーツやレクリエーション活動に対し、小中学校施設等の体育施設の積極的な開放を行う。												
実施状況	<p>学校体育施設開放については、各学校の校庭や体育館等の体育施設を活用して実施している。</p> <p>◆学校体育施設利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>650,000 人</td> <td>603,350 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>620,000 人</td> <td>667,167 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>610,000 人</td> <td>640,386 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 29 年度	650,000 人	603,350 人	平成 30 年度	620,000 人	667,167 人	令和元年度	610,000 人	640,386 人
年度	目標	実績											
平成 29 年度	650,000 人	603,350 人											
平成 30 年度	620,000 人	667,167 人											
令和元年度	610,000 人	640,386 人											
評価検証	生涯スポーツの推進が図られ、多くの市民が学校体育施設を利用してスポーツに親しんでいる。スポーツ環境の向上により、学校体育施設を利用する登録団体数は毎年増加している。												
今後の方針	生涯スポーツの更なる普及・推進を図るため、引き続き制度の周知活動に力を入れていく。また、利用者が安全にスポーツに親しむことができるよう、屋外照明の修繕や使用する器具の安全管理について整備を進めていく。												

施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		社会教育課 中央公民館
取組	4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進 4-1-3 人権文化の創造 4-1-4 家庭教育の振興 4-1-5 学習支援体制の整備 4-1-6 平和な社会生活の創造 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備	

事業名	地区推進体制整備事業（取組 4-1-1）													
事業の目的	学習者と地域をつなぐコーディネーターとしての役割を担っている生涯学習推進員の活動を支援し、地域住民の生涯学習推進の充実を図る。													
実施状況	<p>◆生涯学習推進研究大会</p> <p>令和元年度は、第4ブロック久留馬小校区による「地域の特色と人材による生涯学習」、第7ブロック上郊小校区による「生涯学習推進員の地域づくり～上郊小校区の取り組み～」、下里見公民館主事による「地域と成長していく公民館」のそれぞれの事例研究発表を行った。</p> <p>◆生涯学習推進員が関わった地域活動</p> <p>参加人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>16,000 人</td> <td>17,046 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>16,000 人</td> <td>16,541 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>17,046 人</td> <td>16,069 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 29 年度	16,000 人	17,046 人	平成 30 年度	16,000 人	16,541 人	令和元年度	17,046 人	16,069 人	<p>生涯学習推進研究大会</p>
年度	目標	実績												
平成 29 年度	16,000 人	17,046 人												
平成 30 年度	16,000 人	16,541 人												
令和元年度	17,046 人	16,069 人												
評価検証	生涯学習推進研究大会は、生涯学習フェスティバルと同時開催することにより、多くの市民に生涯学習活動を始めのきっかけを提供している。推進員が関わった地域活動の参加人数は、前年度より減少しているものの、推進員連絡会議を開催し、各地域の活動状況や課題などを共有できた。推進員の活動が更に地域住民に理解されることが大切である。													
今後の方針	手引書等の利活用を促進し、学校や公民館等の社会教育施設との連携を深め、参加者を増やせるよう生涯学習の活性化に努める。生涯学習推進員の役割や地域の特性を生かしながら、積極的に活動されている状況を明確にし、更なる活動支援を図る。													


事業名	公民館運営事業（取組 4-1-2・4-1-7）																									
事業の目的	地域の特色と住民の学習要求に対応した事業の展開を通して、「心豊かな活力ある人づくり・地域づくり」を行う。																									
実施状況	<p>公民館主催事業については、次の4つを柱に展開している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフアップ推進事業－高齢者、健康、家庭教育、環境教育、防災・防犯、人権等の社会的な課題に関する学習機会を提供する事業</li> <li>2 キャリアデザイン支援事業－生きがいのある人生設計を考え、個々の能力や個性の開発に挑戦できる学習機会を提供する事業</li> <li>3 地域づくり支援・ボランティア養成事業－地域の伝統や文化をより発展させるための支援や活動ボランティアを養成する事業</li> <li>4 図書ボランティア活動支援事業－心豊かな子どもたちの成長を願い、公民館図書活動を充実させるための事業</li> </ol> <p>◆公民館利用者数</p> <table border="1" data-bbox="384 763 976 965"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>940,000 人</td> <td>872,593 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>900,000 人</td> <td>830,807 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>890,000 人</td> <td>782,419 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆公民館主催事業への参加者数</p> <table border="1" data-bbox="384 1021 976 1223"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>130,000 人</td> <td>129,636 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>130,000 人</td> <td>115,992 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>130,000 人</td> <td>103,267 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>豆富作り体験教室の様子（東部公民館）</p>		年度	目標	実績	平成 29 年度	940,000 人	872,593 人	平成 30 年度	900,000 人	830,807 人	令和元年度	890,000 人	782,419 人	年度	目標	実績	平成 29 年度	130,000 人	129,636 人	平成 30 年度	130,000 人	115,992 人	令和元年度	130,000 人	103,267 人
年度	目標	実績																								
平成 29 年度	940,000 人	872,593 人																								
平成 30 年度	900,000 人	830,807 人																								
令和元年度	890,000 人	782,419 人																								
年度	目標	実績																								
平成 29 年度	130,000 人	129,636 人																								
平成 30 年度	130,000 人	115,992 人																								
令和元年度	130,000 人	103,267 人																								
評価検証	<p>公民館利用者数、公民館主催事業への参加者数ともに前年度より減少した。これは、高齢化に伴う定期利用サークルの解散、趣味の多様化等、社会状況の変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響によるサークル活動の自粛や主催事業の中止によるものである。</p> <p>各公民館では地域の特色を生かした事業を企画し、「公民館だより」の町内回覧やホームページ「まなびネットたかさき」の活用などにより、広く市民に参加を呼びかけ、必要とする人に情報が届くように努めるとともに、団体育成・地域づくりの支援を行っている。</p> <p>地域の特色を生かした新たな事業として、夏休み中に子どもたちがみんなで昼食をとり交流を図った東公民館の「なつやすみ東ランチ」、地域の「ママさんサポーター」が自ら企画した東部公民館の「豆富作り体験教室」、小中学生から地域資源をテーマに標語を募った箕郷公民館の「『みさと歴史・文化』標語作品コンクール」、小学生が大学生から自分でもできる防災を学んだ新町公民館の「僕にも私にもできるよ！防災教室」を始めとしたさまざまな事業を展開した。各公民館では地域の学校や関係団体と連携しながら、地域の特色を生かした事業に取り組んでいる。</p>																									
今後の方針	<p>地域住民の生活を支える社会教育活動の拠点として生涯学習の推進に努めるとともに、公民館職員の資質の向上を図りながら、心豊かな活力ある人づくり・地域づくりに資する事業を推進していく。</p>																									

事業名	生涯学習推進事業（取組 4-1-1・4-1-5）																								
事業の目的	市民一人ひとりの主体的な学習活動が地域づくりに生かされ、地域力を育む生涯学習社会が創造されるよう本事業の推進を図るとともに市民の学習活動を支援する。																								
実施状況	<p>◆生涯学習推進事業参加者・受講者数</p> <table border="1" data-bbox="384 418 1401 819"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>令和元年度目標</th> <th>令和元年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習推進研究事業</td> <td>350 人</td> <td>320 人</td> </tr> <tr> <td>まちづくり出前講座</td> <td>7,500 人</td> <td>7,340 人</td> </tr> <tr> <td>生涯学習フェスティバル</td> <td>450 人</td> <td>640 人</td> </tr> <tr> <td>地域人材登録活用事業</td> <td>7,600 人</td> <td>7,630 人</td> </tr> <tr> <td>高崎学検定事業</td> <td>120 人</td> <td>96 人</td> </tr> <tr> <td>高崎学検定新規受検者の割合</td> <td>40%</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>まなびネットたかさきの閲覧回数</td> <td>250,000 回</td> <td>276,966 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆たかさき子ども活動デーの推進</p> <p>学習活動の一環として土曜日を有意義に過ごせるよう、市内各施設の子ども向け事業の情報を掲載した「たかさき子ども活動デー・インフォメーション」を140,000部発行した。</p>	事業名	令和元年度目標	令和元年度実績	生涯学習推進研究事業	350 人	320 人	まちづくり出前講座	7,500 人	7,340 人	生涯学習フェスティバル	450 人	640 人	地域人材登録活用事業	7,600 人	7,630 人	高崎学検定事業	120 人	96 人	高崎学検定新規受検者の割合	40%	30%	まなびネットたかさきの閲覧回数	250,000 回	276,966 回
事業名	令和元年度目標	令和元年度実績																							
生涯学習推進研究事業	350 人	320 人																							
まちづくり出前講座	7,500 人	7,340 人																							
生涯学習フェスティバル	450 人	640 人																							
地域人材登録活用事業	7,600 人	7,630 人																							
高崎学検定事業	120 人	96 人																							
高崎学検定新規受検者の割合	40%	30%																							
まなびネットたかさきの閲覧回数	250,000 回	276,966 回																							
評価検証	<p>各校区の生涯学習推進事業が広く周知され、地域住民の学習を支援したことから、まちづくり出前講座と生涯学習フェスティバルの参加者は前年度より実績を伸ばすことができた。生涯学習推進研究事業の参加者は前年度を下回った。引き続き内容を充実させるとともに、周知方法を工夫する等、より参加者数の増を図りたい。</p> <p>「地域人材登録活用事業」は、受講者数は減少したが、講師派遣依頼数では前年度の実績を維持した。引き続き、市民の積極的な学習の支援を行っていく。</p> <p>「高崎学検定事業」では、目標値には届かなかったものの減少傾向にあった受検者数も増加となり、新規受検者数も増加したことから、引き続き、より多くの市民に関心をもってもらえるよう周知を行うとともに、受検に結びつくよう他の事業との連携も含めた啓発に努める。また、更なる地域活動の発表が行える場の提供や市民が積極的に学習できるような事業の啓発も行っていく。</p>																								
今後の方針	インターネットを利用した生涯学習情報システム「まなびネットたかさき」の内容を更に充実・活用する。関係機関との調整を図るとともに連携を深め、市民サービスの向上に努める。																								

事業名	人権文化創造事業（取組 4-1-3・4-1-6）																																																
事業の目的	人権尊重都市宣言の具現化を目指し、基本的人権尊重の精神が本市の隅々まで浸透し、「思いやりの心が行きわたるまちたかさき」の創造を図るため、人の立場を尊重しつつ、人を思いやる心をもつことの大切さを啓発し、支えあって生活していけるよう、さまざまな人権課題に関する講座、懇談会等を開催する。																																																
実施状況	<p>◆心豊かな地域づくりのための懇談会参加者数</p> <table border="1" data-bbox="368 432 908 629"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>2,500 人</td> <td>2,081 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>2,300 人</td> <td>1,997 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>2,200 人</td> <td>1,987 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆心豊かな地域づくりのための懇談会 「参考になった」と答えた参加者の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 725 908 922"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>93%</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>90%</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>95%</td> <td>94%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>心豊かな地域づくりのための懇談会</p> <p>◆人権教育講座参加者数（公民館主催）</p> <table border="1" data-bbox="368 972 908 1169"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>1,700 人</td> <td>1,343 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>1,700 人</td> <td>1,500 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,500 人</td> <td>1,411 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆人権講演会参加者数（「思いやりを持った社会を作るための市民研修会」等）</p> <table border="1" data-bbox="368 1218 908 1415"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>500 人</td> <td>355 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>420 人</td> <td>328 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>400 人</td> <td>363 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 29 年度	2,500 人	2,081 人	平成 30 年度	2,300 人	1,997 人	令和元年度	2,200 人	1,987 人	年度	目標	実績	平成 29 年度	93%	94%	平成 30 年度	90%	94%	令和元年度	95%	94%	年度	目標	実績	平成 29 年度	1,700 人	1,343 人	平成 30 年度	1,700 人	1,500 人	令和元年度	1,500 人	1,411 人	年度	目標	実績	平成 29 年度	500 人	355 人	平成 30 年度	420 人	328 人	令和元年度	400 人	363 人
年度	目標	実績																																															
平成 29 年度	2,500 人	2,081 人																																															
平成 30 年度	2,300 人	1,997 人																																															
令和元年度	2,200 人	1,987 人																																															
年度	目標	実績																																															
平成 29 年度	93%	94%																																															
平成 30 年度	90%	94%																																															
令和元年度	95%	94%																																															
年度	目標	実績																																															
平成 29 年度	1,700 人	1,343 人																																															
平成 30 年度	1,700 人	1,500 人																																															
令和元年度	1,500 人	1,411 人																																															
年度	目標	実績																																															
平成 29 年度	500 人	355 人																																															
平成 30 年度	420 人	328 人																																															
令和元年度	400 人	363 人																																															
評価検証	<p>「心豊かな地域づくりのための懇談会」では、「参考になった」と答えた参加者の割合が 94% であり目標値に届かなかったが、現状の満足度を維持できるように取り組みを継続していきたい。また、「大変参考になった」の割合が 60% を超える館が 10 館あり、これらの館は初めて参加した人の割合が平均 47% と高い傾向がみられたことから、新たな参加者が人権について考える経験をしたことで、人権尊重の精神が広がって行くと思われた。話し合いを通じて世代間の交流が生まれたことに対して大変満足度が高いとの感想が寄せられている。50 代以下の参加が満足度を上げるための重要なポイントであると考えられる。</p> <p>各公民館で開催している「人権教育講座」では、新型コロナウイルス感染症のため実施できない公民館が 1 館あり、参加者数が減少した。高齢者を対象とした講座が 17 館と一番多く、次いで子どもを対象とした講座が 7 館実施され、幅広い世代の学習の場となった。</p> <p>「人権教育指導者養成講座」の参加者数は目標値には届かなかったが、過去 3 年間では一番多かった。新たに社会教育講師が多く参加したためと考えられる。</p>																																																



今後の方針	市内の社会教育施設の大きな部分を占める各地区公民館との連携・協働を図り、人権課題に関する講座、懇談会等により多くの参加者が得られるよう周知を行う。特に、小中学校のPTAや地域の育成会などの子育て世代への参加協力を求め、世代間交流を図りながら心豊かな地域づくりのための懇談会や人権教育講座を開催していく。講座の企画にあたっては、事業実施後のアンケート結果を考察し、市民の実態把握や地域の課題や実情を理解し、参加意義や充実感を感じられるよう心がける。
-------	---

事業名	家庭教育支援事業（取組4-1-4）																								
事業の目的	家庭の教育力の向上を目指すとともに、子どもを取り巻く環境の変化に対応するために家庭教育に関する各種講座を開催する。また、子育て支援に携わる市民との協働を図り、子育て支援にかかわる情報の共有や発信、活動支援を行う。																								
実施状況	<p>◆家庭教育関連講座参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>4,700人</td> <td>4,383人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>4,600人</td> <td>4,303人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>4,500人</td> <td>4,002人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆家庭教育関連講座の満足度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>95%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>95%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>99%</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>子育て支援スキルアップ講座の様子</p>	年度	目標	実績	平成29年度	4,700人	4,383人	平成30年度	4,600人	4,303人	令和元年度	4,500人	4,002人	年度	目標	実績	平成29年度	95%	98%	平成30年度	95%	98%	令和元年度	99%	98%
年度	目標	実績																							
平成29年度	4,700人	4,383人																							
平成30年度	4,600人	4,303人																							
令和元年度	4,500人	4,002人																							
年度	目標	実績																							
平成29年度	95%	98%																							
平成30年度	95%	98%																							
令和元年度	99%	98%																							
評価検証	昨年度の「子どもや保護者とのかかわり方」と「発達段階にあわせた子育て」に関する講座に加え、社会的に関心が高まっている「虐待」をテーマに企画・開催した。参加者数は目標値には届かなかったものの、アンケートによる満足度調査では、講座に対する「満足」の割合は3年連続で98%と高い評価を得ることができた。																								
今後の方針	子育てに関する悩みや不安の解消に向け、市民のニーズに合った講座や参加者が満足感を得られる参加体験型の講座を展開して参加者の増加を図っていく。あわせて家庭教育支援に関する情報を「まなびネットたかさき」や「子育て情報紙（すくいく）」などで引き続き市民に提供することで本市の家庭教育力を高めていく。																								

事業名	視聴覚教育事業（取組 4-1-5）																								
事業の目的	視聴覚教育の推進を図るため、フィルムライブラリーの貸出しの充実を図る。																								
実施状況	<p>◆視聴覚教材（フィルムライブラリー）貸出数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>150 本</td> <td>150 本</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>200 本</td> <td>184 本</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>160 本</td> <td>158 本</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆視聴覚教具貸出数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>300 件</td> <td>61 件</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>80 件</td> <td>102 件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>80 件</td> <td>48 件</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 29 年度	150 本	150 本	平成 30 年度	200 本	184 本	令和元年度	160 本	158 本	年度	目標	実績	平成 29 年度	300 件	61 件	平成 30 年度	80 件	102 件	令和元年度	80 件	48 件
年度	目標	実績																							
平成 29 年度	150 本	150 本																							
平成 30 年度	200 本	184 本																							
令和元年度	160 本	158 本																							
年度	目標	実績																							
平成 29 年度	300 件	61 件																							
平成 30 年度	80 件	102 件																							
令和元年度	80 件	48 件																							
評価検証	令和元年度は、前年度より貸出数の減少がみられるが、視聴覚教材に対する安定的な需要はあるものとする。DVD資料を更に充実させるとともに、16ミリフィルムの点検等を定期的に行っていく。また、経年劣化が見られる映写機の定期的なメンテナンスやより扱いやすい機器の購入などを通して、より利用者が活用しやすい環境づくりを継続していく。																								
今後の方針	視聴覚教育に対して、一定の市民の関心があると考えられることから、利用者のニーズを把握し、DVD資料の充実やフィルムの劣化防止に努めていく。また、市民の関心が高まるよう、親子での映画会を充実させるなど広報活動を一層行っていく。これまでの継続的な利用者に加え、より多くの関係団体やサークルが利用したくなるよう、「まなびネットたかさき」での掲載やより活用しやすい機器の導入、利用できる機器の紹介など、関係する各課・担当との連携を図りながら啓発活動を行っていく。																								

事業名	公民館整備事業（取組 4-1-8）
事業の目的	本市の公民館は中央公民館のほか、44の地区公民館を設置し、地域力を高めるさまざまな生涯学習活動を推進している。快適な学習環境を提供するため、安全で利用しやすい公民館施設の整備を図る。
実施状況	地域づくりの拠点となる公民館の整備を促進するため、令和元年度は八幡公民館改築工事を行った。
評価検証	八幡公民館改築工事を予定どおり行い、バリアフリー化や館内エレベーターの設置など、安全で利用しやすい公民館施設を整備することができた。
今後の方針	公民館の整備は、既存の施設については施設の老朽化と耐震診断による結果を踏まえ、改修改築等の方針を定めていきたい。また、新たな公民館建設については、地域の特性、人口等の状況や既存公民館の維持補修の状況などから整備を検討していきたい。

事業名	社会教育施設改修事業（取組 4-1-8）
事業の目的	誰もが快適な学習環境で学べるよう、社会教育施設の修繕・工事や維持管理を行う。施設の老朽化等各館の状況を踏まえ、安全で利用しやすい社会教育施設の整備を図る。
実施状況	市内17か所ある交流館等の社会教育施設が機能を発揮できるように、適切な維持管理・修繕を実施した。
評価検証	交流館の修繕・工事は緊急性が高いものに重点的に予算を充て、令和元年度は床貼替、トイレ修繕など11件の修繕、屋上防水や給水管改修などの5件の工事を行った。
今後の方針	陶芸体験施設牛伏窯や交流館の維持管理については、今後も計画的な補修などに努め、適切な管理を行っていく。



事業名	市民活動センター管理運営事業（取組 4-1-8）																				
事業の目的	市民活動センターは、市民の生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現及び市民公益活動の促進を目的として設置された施設であり、これらの目的を達成するため、諸事業を実施するとともに市民のさまざまな活動を推進する。																				
実施状況	<p>◆市民活動センター利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>60,000 人</td> <td>63,215 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>60,000 人</td> <td>57,792 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>64,000 人</td> <td>48,019 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆市民活動センター団体登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>294 団体</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>281 団体</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>292 団体</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 29 年度	60,000 人	63,215 人	平成 30 年度	60,000 人	57,792 人	令和元年度	64,000 人	48,019 人	年度	実績	平成 29 年度	294 団体	平成 30 年度	281 団体	令和元年度	292 団体
年度	目標	実績																			
平成 29 年度	60,000 人	63,215 人																			
平成 30 年度	60,000 人	57,792 人																			
令和元年度	64,000 人	48,019 人																			
年度	実績																				
平成 29 年度	294 団体																				
平成 30 年度	281 団体																				
令和元年度	292 団体																				
評価検証	各団体の催し入場者数の減少や、新型コロナウイルス感染症関連で団体が利用を取りやめたことにより、年間利用者数は減少した。一方、さまざまな事業を通して市民活動センターが周知されたことにより、団体登録数は微増した。																				
今後の方針	市民活動センターは、生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現及び市民公益活動の促進のための拠点施設として、事業を更に強化していく必要がある。 引き続き、利用者数、団体登録数の確保及び円滑な事業運営のための工夫を進める。																				

施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		中央図書館
取組	4-2-1 中央図書館の活用 4-2-2 中央館と地域館とのネットワークの構築 4-2-3 図書資料や視聴覚資料の充実 4-2-4 関係諸機関との連携 4-2-5 近隣自治体の図書館との連携	

事業名	図書館管理運営事業（取組 4-2-1・4-2-2・4-2-3）																											
事業の目的	幅広い年齢層の市民や最新の社会動向など、さまざまなニーズに応えられるように、所蔵資料やサービスを充実させ、より利用しやすい図書館を目指す。																											
実施状況	<p>◆個人貸出点数</p> <table border="1"> <tr> <td>令和元年度実績</td> </tr> <tr> <td>2,236,507 点</td> </tr> </table> <p>◆図書館資料個人貸出点数 年度推移</p> <table border="1"> <caption>◆資料貸出点数 (点)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>2,436,674</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>2,321,018</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>2,268,727</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>2,275,157</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>2,236,507</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆図書館資料貸出人数 年度推移</p> <table border="1"> <caption>◆資料貸出人数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>596,493</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>569,498</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>548,407</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>562,188</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>550,426</td> </tr> </tbody> </table>		令和元年度実績	2,236,507 点	年度	合計	平成 27 年度	2,436,674	平成 28 年度	2,321,018	平成 29 年度	2,268,727	平成 30 年度	2,275,157	令和元年度	2,236,507	年度	合計	平成 27 年度	596,493	平成 28 年度	569,498	平成 29 年度	548,407	平成 30 年度	562,188	令和元年度	550,426
令和元年度実績																												
2,236,507 点																												
年度	合計																											
平成 27 年度	2,436,674																											
平成 28 年度	2,321,018																											
平成 29 年度	2,268,727																											
平成 30 年度	2,275,157																											
令和元年度	2,236,507																											
年度	合計																											
平成 27 年度	596,493																											
平成 28 年度	569,498																											
平成 29 年度	548,407																											
平成 30 年度	562,188																											
令和元年度	550,426																											

◆資料別蔵書点数

区 分		平成30年度 蔵書数(点)	令和元年度 蔵書数(点)
高崎市立中央図書館	一 般	482,738	491,549
	児 童	83,576	84,597
	視聴覚	87,109	89,478
公民館等	一 般	30,331	30,793
	児 童	29,258	29,850
	視聴覚	4	4
高崎駅サービスセンター	一 般	22,057	19,727
	児 童	1,869	1,381
箕郷図書館	一 般	31,844	31,706
	児 童	14,483	14,188
	視聴覚	3,852	3,835
群馬図書館	一 般	107,113	108,673
	児 童	36,028	36,370
	視聴覚	7,543	7,703
新町図書館	一 般	70,315	70,482
	児 童	25,371	25,645
	視聴覚	6,804	6,912
榛名図書館	一 般	41,790	42,847
	児 童	20,867	21,498
	視聴覚	3,189	3,240
山種記念吉井図書館	一 般	30,843	31,801
	児 童	23,736	24,287
	視聴覚	2,887	3,090
合 計		1,163,607	1,179,656

実施状況

評価検証

個人貸出点数及び貸出人数について、過去5年間多少の増減はあるものの概ね平均的に推移している。前年度と比較して減少しているのは、駅サービスセンター図書コーナーが統一地方選挙等の期日前投票所となり貸出業務を停止した影響が考えられる。

今後の方針



貸出利用に限らず、図書館がより有効に活用されるよう、引き続き所蔵資料の充実やレファレンスサービスの利用促進に努める。また、多くの子どもたちが読書への興味関心を高められるよう、企画展示や特集コーナーの設置、インターネットを活用した情報発信などを推進する。

事業名	関係諸機関との連携事業（取組 4-2-4・4-2-5）										
事業の目的	<p>地域の拠点となる公民館との間でサービスの拡充に努めるとともに、学校図書館などの教育関係機関と資料や人的支援を有効に活用した連携の強化を図る。</p> <p>また、近隣自治体図書館とも連携し、図書資料の相互貸借事業を引き続き活用し、サービスの充実を図る。</p>										
実施状況	<p>◆学校連携相談対応貸出実績</p> <table border="1" data-bbox="368 450 904 546"> <tr> <th colspan="2">令和元年度実績</th> </tr> <tr> <td>332 件（59 校）</td> <td>6,665 冊</td> </tr> </table> <p>◆県立図書館学習支援セット貸出実績</p> <table border="1" data-bbox="368 636 904 786"> <tr> <th colspan="2">令和元年度実績</th> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>20 回</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>2 回</td> </tr> </table> <p>上記のほか、「がっこう⇄たかさき としょかん通信」を6回発行した。 また、学校図書館指導員の研修に図書館職員を講師として派遣した。</p>	令和元年度実績		332 件（59 校）	6,665 冊	令和元年度実績		小学校	20 回	中学校	2 回
令和元年度実績											
332 件（59 校）	6,665 冊										
令和元年度実績											
小学校	20 回										
中学校	2 回										
評価検証	<p>学校連携事業については、これまでの相談事例を基に新たな学校連携パックを作成するなど一層の充実に向けた努力を続けた。学校側でも利用したパックを参考にして図書の選書や購入するといった事例が見受けられた。</p> <p>また、相互貸借事業については、貸出しや借用ともに近隣自治体図書館との連携の充実が図れている。</p>										
今後の方針	関係諸機関との連携を深め、更なるサービスの向上を図る。										

点検・評価シート


施策の視点	5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	担当課
		文化財保護課
取組	5-1 文化財保存活用地域計画の策定・推進 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり 5-3 市民への文化財情報の提供 5-4 文化財に親しむための環境づくり 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり 5-7 民俗資料の収集と展示 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動 5-9 市民に開かれた資料館の運営 5-10 市民の学習活動の支援	


事業名	文化財保存活用地域計画の策定・推進事業（取組 5-1）
事業の目的	市民共有の文化遺産の適切な保存、有効な活用方法や整備のあり方について文化財保存活用地域計画の策定を検討する。
実施状況	文化財保護マスタープラン作成のための検討成果を生かし、文化財保護法の改正により新たに位置付けられた文化財保存活用地域計画策定のための検討を進めた。
評価検証	文化財保存活用地域計画策定のための、情報収集及び資料整理作業を行った。
今後の方針	文化財保存活用地域計画の策定・推進を検討していく。

事業名	日高遺跡保存整備事業（取組 5-2）							
事業の目的	国指定史跡日高遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。							
実施状況	<p>J R 上越線南側区域の整備工事を行い、安全施設工を実施した。</p> <p>また、供用を開始した J R 線北側区域では、復元した弥生時代の水田を活用し、地元で組織された「日高遺跡をともに楽しむ会」とともに、住民参加型の稲作体験イベントを開催した。</p> <p>開園部分については、業務委託により除草等の管理を行った。</p> <p>◆事業進捗率（令和元年度）</p> <table border="1" data-bbox="370 902 874 1003"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1%</td> <td>1%</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	1%	1%	50%	 <p>整備完成予想図</p>  <p>稲作イベント（田植え）の様子</p>
目標	実績	通算実績						
1%	1%	50%						
評価検証	整備工事に着手して 11 年目となり、上越線南側区域の工事を実施した。また、復元した水田では、地元で組織された活用団体とともに、住民参加型の稲作体験イベントなどを開催し、公園の利用のあり方について市民の関心が高まった。							
今後の方針	J R 上越線南側区域の整備工事を推進する。							

事業名	箕輪城跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡箕輪城跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>史跡整備基本設計に基づき、本丸の土塁整備工事と本丸・蔵屋敷間木橋整備工事（基礎工事）を実施した。</p> <p>◆事業進捗率（令和元年度）</p> <table border="1" data-bbox="359 564 882 665"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4%</td> <td>4%</td> <td>70%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備完成予想図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>本丸・蔵屋敷間木橋整備工事状況（基礎の工事）</p> </div> </div>	目標	実績	通算実績	4%	4%	70%
目標	実績	通算実績					
4%	4%	70%					
評価検証	整備工事に着手して9年目になり、郭馬出地区に引き続き、本丸地区の整備が着々と進んでいる状況である。						
今後の方針	本丸地区の整備工事を推進する。						



事業名	北谷遺跡保存整備事業（取組 5-2）							
事業の目的	国指定史跡北谷遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。							
実施状況	<p>平成23年度に策定された保存管理計画をもとに、28年度から史跡地の公有地化に着手し、令和元年度も実施した。</p> <p>その他、除草等の史跡管理を行った。</p> <p>◆事業進捗率（令和元年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>84%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	20%	20%	84%	 <p>北谷遺跡航空写真</p>
目標	実績	通算実績						
20%	20%	84%						
評価検証	引き続き史跡の公有地化を進めた。北谷遺跡の整備について、地元の関心が高まってきている。							
今後の方針	史跡地の公有地化を進める。							

事業名	山名古墳群保存整備事業（取組 5-2）	
事業の目的	市指定史跡山名古墳群を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。	
実施状況	<p>除草等の維持管理を行い、来訪者が見学できるように、周辺環境を整えた。</p> <p>駐車場は大型バスが駐車できるため、山名古墳群だけでなく、山上碑見学のための駐車場としても使用できるようにしている。</p>	 <p>山名古墳群航空写真</p>
評価検証	維持管理を継続しており、整備については、今後の検討課題となっている。	
今後の方針	上野三碑や他の史跡との一体的活用について検討を進めていく。	



事業名	「世界の記憶 上野三碑」関連事業（取組 5-2・5-3・5-4・5-10）
事業の目的	ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の周知活動や周辺環境整備、保存管理等を実施する。
実施状況	<p>ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の保存活用を進めるため、三碑一帯の整備、多胡碑記念館の機能強化、ボランティア団体との連携、動画配信や各種パンフレットを活用した情報発信、民間団体との協力による地域振興、児童・生徒への教育などに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上野三碑めぐりバスの運行（通年）</li> <li>・ 多胡碑記念館入館料の無料化（通年）</li> <li>・ ボランティア団体等への補助 <ul style="list-style-type: none"> <li>上野三碑ボランティア会</li> <li>山上碑・金井沢碑を愛する会</li> <li>上野三碑をつなぐ会</li> </ul> </li> <li>・ 開扉公開の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年11月3日</li> </ul> </li> <li>・ 副教材の配布 <ul style="list-style-type: none"> <li>市立小学校、中学校の新1年生児童・生徒</li> </ul> </li> <li>・ レプリカの展示・貸出し <ul style="list-style-type: none"> <li>高崎駅コンコース（通年展示）、</li> <li>ヤマダグリーンドーム前橋、</li> <li>スマーク伊勢崎、東京スカイツリー</li> </ul> </li> <li>・ ロゴマークの普及・使用許可</li> <li>・ 6館スタンプラリーの開催</li> <li>・ 周知事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレット作成及び配布、高崎駅ペDESTリアンデッキ看板設置等</li> </ul> </li> <li>・ 企画展の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>「多胡碑の記憶～建郡と正倉跡～」 多胡碑記念館</li> </ul> </li> <li>・ 環境整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア団体と共同による作業</li> </ul> </li> </ul>
評価検証	ユネスコ「世界の記憶」登録直後と比べると見学者数は減少しているが、登録前と比較すると見学者数は1.5倍程度に増えている。
今後の方針	引き続き、地元ボランティア団体等と協力し、上野三碑の更なる普及・推進に努めたい。



上野三碑めぐりバス



上野三碑副教材（小・中学生対象）

事業名	文化財管理事業（取組 5-2・5-6）																																
事業の目的	市内に点在する指定文化財を保護するとともに、史跡・重要文化財等の一般公開を実施する。また、文化財愛護精神の高揚を図るため、文化財作文コンクールなど参加型の関連事業を開催する。																																
実施状況	<p>保護普及活動事業として、文化財作文コンクールの実施、上豊岡の茶屋本陣等の歴史的建造物の公開、また、ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の覆い屋を11月に開扉し広く公開した。3月に予定していた一般公開は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。</p> <p>◆文化財作文コンクール応募者数</p> <table border="1" data-bbox="379 734 935 931"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>1,000人</td> <td>1,425人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>1,000人</td> <td>1,268人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,500人</td> <td>1,293人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆上豊岡の茶屋本陣見学者数</p> <table border="1" data-bbox="379 1077 935 1274"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>1,400人</td> <td>953人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>1,400人</td> <td>826人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,000人</td> <td>1,162人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆上野三碑一般公開見学者数</p> <table border="1" data-bbox="379 1413 874 1610"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度（3日公開）</td> <td>3,503人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度（2日公開）</td> <td>1,170人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度（1日公開）</td> <td>589人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成29年度	1,000人	1,425人	平成30年度	1,000人	1,268人	令和元年度	1,500人	1,293人	年度	目標	実績	平成29年度	1,400人	953人	平成30年度	1,400人	826人	令和元年度	1,000人	1,162人	年度	実績	平成29年度（3日公開）	3,503人	平成30年度（2日公開）	1,170人	令和元年度（1日公開）	589人
年度	目標	実績																															
平成29年度	1,000人	1,425人																															
平成30年度	1,000人	1,268人																															
令和元年度	1,500人	1,293人																															
年度	目標	実績																															
平成29年度	1,400人	953人																															
平成30年度	1,400人	826人																															
令和元年度	1,000人	1,162人																															
年度	実績																																
平成29年度（3日公開）	3,503人																																
平成30年度（2日公開）	1,170人																																
令和元年度（1日公開）	589人																																
評価検証	上豊岡の茶屋本陣においては、来訪団体数が増えたことにより、見学者数の伸びがみられた。																																
今後の方針	指定文化財の適切な保存管理に努め、文化財が身近に感じられるようなイベントの開催など、新型コロナウイルス感染症拡大防止を心掛けながら、文化財への理解を促していきたい。																																



作文コンクール授賞式の様子







上野三碑一般公開


事業名	埋蔵文化財調査事業（取組 5-3・5-4）												
事業の目的	<p>開発事業によって壊される遺跡の出土品などを展示し、その成果を広く市民に公開する。前橋高崎連携事業の一つとして文化財展を実施し、両市の市民が郷土史に理解を深めるような展示を行う。</p>												
実施状況	<p>前橋市との連携展示会をシティギャラリーで実施するとともに、展示解説会を行った。</p> <p>◆連携展入場者数</p> <table border="1" data-bbox="379 591 938 786"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>1,300 人</td> <td>1,123 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>1,200 人</td> <td>1,150 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,200 人</td> <td>885 人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;">     </div> <p style="text-align: center;">高崎会場展示品</p>	年度	目標	実績	平成 29 年度	1,300 人	1,123 人	平成 30 年度	1,200 人	1,150 人	令和元年度	1,200 人	885 人
年度	目標	実績											
平成 29 年度	1,300 人	1,123 人											
平成 30 年度	1,200 人	1,150 人											
令和元年度	1,200 人	885 人											
評価検証	<p>「前橋・高崎発掘物語。一文化財を未来へつなぐ」と題し、本市と前橋市の発掘調査で出土した優品に焦点をあて、大切に伝えられた文化財を未来へつなぐため、両市の基礎となった歴史の豊かさを示す品々を展示した。</p> <p>また、昨年引き続き展示関連の解説会を実施した。</p>												
今後の方針	<p>発掘調査によって得られた資料をより生かすため、公開の場を増やし、文化財保護の保存と活用を図る。</p>												

事業名	多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業（取組5-3）							
事業の目的	多胡郡衙等の遺跡の所在、範囲及び性格を明らかにすることにより、多胡碑の史跡としての価値を高めるとともに、多胡碑の重要性等について周知を図る。							
実施状況	<p>9年目（全16年）の調査となった令和元年度は郡衙施設の有無を確認するため、多胡碑南東地区及び新井地区において1,155㎡を調査し、古代溝跡、土坑を検出した。また、多胡郡正倉跡の国指定について意見具申を行い、令和2年3月10日に官報告示され、国指定史跡となった。</p> <p>文化庁の了承を得て事業期間を5年延長し、多胡郡正倉跡で発見された周辺の確認調査を追加実施していく。</p> <p>◆事業進捗率（令和元年度）</p> <table border="1" data-bbox="347 990 888 1088"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6%</td> <td>6%</td> <td>56%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	6%	6%	56%	 <p>南東地区で検出した溝跡</p>
目標	実績	通算実績						
6%	6%	56%						
評価検証	多胡碑南東地区で検出された古代の溝は、多胡郡正倉跡区画溝より規模は小さいが、断面形状及び埋没過程は同じ特徴を有し、同時期8世紀中頃の遺構と考えられる。新井地区では開発に伴う確認調査の結果、古代の遺構はすでに削られて消滅している可能性が高く、周辺に瓦葺き建物が存在する可能性は低いと考えられる。							
今後の方針	<p>次年度からは溝の性格、範囲並びに正倉跡との関係性について検討していくとともに、多胡郡衙の遺構所在、範囲及び性格を明らかにするため確認調査を継続する。</p> <p>また、地元住民及び地権者に遺跡の重要性を伝える啓発活動を継続する。</p>							



事業名	上野国分尼寺跡範囲確認調査事業（取組5-3）							
事業の目的	上野国分尼寺跡の寺域範囲や施設配置等を調査することにより、国分尼寺の史跡としての価値を高めるとともに、国分尼寺の重要性等について周知を図る。							
実施状況	<p>4年目（全13年）の調査となった令和元年度は400㎡を調査し、伽藍地中樞部を囲む回廊の規模・構造を探る多くの手掛かりが得られ、金堂の位置も特定できた。</p> <p>また、回廊跡基壇で屋根に葺かれていた多量の瓦が出土し、更に瓦塔<sup>がとう</sup>の破片が見つかった。</p> <p>文化庁の了承を得て事業期間を3年延長し、伽藍内施設及び西辺補足調査を追加実施していく。</p> <p>◆事業進捗率（令和元年度）</p> <table border="1" data-bbox="384 1037 887 1133"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8%</td> <td>8%</td> <td>31%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	8%	8%	31%	 <p style="text-align: center;">調査地全景</p>  <p style="text-align: center;">西面回廊跡基壇下付近から出土した瓦塔片</p>
目標	実績	通算実績						
8%	8%	31%						
評価検証	<p>確認された回廊跡の規模は、二次調査成果とあわせ、東西54m、南北42mとなることがわかるとともに北西隅の礎石が原位置で残っていたことが判明した。</p> <p>屋根は瓦葺きと考えられ、金堂や講堂など建物内に安置されていたものとされる瓦塔の破片も確認された。</p> <p>マスコミにも取り上げられ、現地説明会を開催したところ、226人の見学者が参加するなど市民の大きな関心を得た。</p>							
今後の方針	<p>今後の遺跡保存を検討するうえで、伽藍西辺範囲の調査を継続し、寺域の範囲を確定していくとともに伽藍主要施設である金堂跡の位置及び範囲確認を実施する。</p> <p>また、遺跡の価値付けを行うための発掘調査概要報告書作成に向けた基礎資料整理を実施する。</p>							

事業名	文化財調査事業（取組 5-5・5-6）										
事業の目的	文化財の把握・保護に取り組むため、指定文化財の所在調査や未指定文化財等の詳細調査、指定文化財の修理や案内板等の設置を行う。										
実施状況	<p>指定文化財所在確認調査や建造物調査を実施した。  国指定重要文化財榛名神社や市指定文化財の保存修理を実施した。  指定文化財の説明板を設置し文化財の普及に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="373 555 995 801"> <thead> <tr> <th>事業の内容</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財所在確認調査数</td> <td>63 件</td> </tr> <tr> <td>建造物調査</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td>文化財修理件数</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td>指定文化財説明板設置件数</td> <td>3 件</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="381 860 804 1173" style="text-align: center;">  <p>榛名神社国祖社及び額殿修理状況</p> </div> <div data-bbox="932 860 1315 1173" style="text-align: center;">  <p>二子塚古墳に説明看板を設置</p> </div> </div>	事業の内容	件数	文化財所在確認調査数	63 件	建造物調査	2 件	文化財修理件数	2 件	指定文化財説明板設置件数	3 件
事業の内容	件数										
文化財所在確認調査数	63 件										
建造物調査	2 件										
文化財修理件数	2 件										
指定文化財説明板設置件数	3 件										
評価検証	<p>市内指定文化財の所在確認調査の継続実施や建造物調査を行い、文化財の保存管理状況などを確認し、課題等を把握することができた。  また、指定文化財の説明板を設置し、文化財の活用に向けた成果を上げることができた。</p>										
今後の方針	今後の文化財指定・保護の資料とするため、各種文化財の調査事業の充実を図る。										

事業名	歴史民俗資料館運営事業（取組 5-7・5-8）																																																
事業の目的	昔の人の生活文化を知り市民生活の推移を理解していくため、歴史民俗資料の収集や企画展の開催、体験的な学習活動を実施する。																																																
実施状況	<p>○歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="373 378 1441 672"> <thead> <tr> <th>事業の内容</th> <th>期日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展1「兵隊さかずきに映った高崎ーあの日々を忘れないー」</td> <td>令和元. 7. 6～9. 1</td> </tr> <tr> <td>企画展2「商都高崎の秤と枡の繁盛記」</td> <td>令和元. 11. 1～12. 15</td> </tr> <tr> <td>特別展示「上野三碑と多胡碑に似せた多胡碑の拓本展」</td> <td>令和 2. 1. 11～2. 2</td> </tr> <tr> <td colspan="2">団体見学受入、小学校社会科体験学習、博物館実習生受入</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="373 719 919 927"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>7,500 人</td> <td>6,327 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>7,000 人</td> <td>6,097 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>6,500 人</td> <td>6,419 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>企画展2「商都高崎の秤と枡の繁盛記」</p> <p>○榛名歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="373 1021 1441 1267"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業の内容</th> <th>期日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">企画展</td> <td>「雛人形展」</td> <td>平成 31. 3. 1～令和元. 5. 31</td> </tr> <tr> <td>「新寄贈品展」</td> <td>令和元. 6. 1～2. 3. 31</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他事業</td> <td>「榛名神社史跡めぐり」</td> <td>令和元. 8. 23</td> </tr> <tr> <td>「榛名の歴史を知る講演会」</td> <td>令和元. 9. 14、9. 28</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆榛名歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="373 1317 924 1514"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>4,000 人</td> <td>6,696 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>7,000 人</td> <td>7,715 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>7,500 人</td> <td>10,471 人</td> </tr> </tbody> </table>		事業の内容	期日	企画展1「兵隊さかずきに映った高崎ーあの日々を忘れないー」	令和元. 7. 6～9. 1	企画展2「商都高崎の秤と枡の繁盛記」	令和元. 11. 1～12. 15	特別展示「上野三碑と多胡碑に似せた多胡碑の拓本展」	令和 2. 1. 11～2. 2	団体見学受入、小学校社会科体験学習、博物館実習生受入		年度	目標	実績	平成 29 年度	7,500 人	6,327 人	平成 30 年度	7,000 人	6,097 人	令和元年度	6,500 人	6,419 人	事業の内容		期日	企画展	「雛人形展」	平成 31. 3. 1～令和元. 5. 31	「新寄贈品展」	令和元. 6. 1～2. 3. 31	その他事業	「榛名神社史跡めぐり」	令和元. 8. 23	「榛名の歴史を知る講演会」	令和元. 9. 14、9. 28	年度	目標	実績	平成 29 年度	4,000 人	6,696 人	平成 30 年度	7,000 人	7,715 人	令和元年度	7,500 人	10,471 人
事業の内容	期日																																																
企画展1「兵隊さかずきに映った高崎ーあの日々を忘れないー」	令和元. 7. 6～9. 1																																																
企画展2「商都高崎の秤と枡の繁盛記」	令和元. 11. 1～12. 15																																																
特別展示「上野三碑と多胡碑に似せた多胡碑の拓本展」	令和 2. 1. 11～2. 2																																																
団体見学受入、小学校社会科体験学習、博物館実習生受入																																																	
年度	目標	実績																																															
平成 29 年度	7,500 人	6,327 人																																															
平成 30 年度	7,000 人	6,097 人																																															
令和元年度	6,500 人	6,419 人																																															
事業の内容		期日																																															
企画展	「雛人形展」	平成 31. 3. 1～令和元. 5. 31																																															
	「新寄贈品展」	令和元. 6. 1～2. 3. 31																																															
その他事業	「榛名神社史跡めぐり」	令和元. 8. 23																																															
	「榛名の歴史を知る講演会」	令和元. 9. 14、9. 28																																															
年度	目標	実績																																															
平成 29 年度	4,000 人	6,696 人																																															
平成 30 年度	7,000 人	7,715 人																																															
令和元年度	7,500 人	10,471 人																																															
評価検証	<p>歴史民俗資料館は、前年同様「高崎のことがわかる」をコンセプトに企画展などを開催し、特に小学生の体験学習で好評を得ており、入館者数が目標値には届かなかったものの、前年度を上回る実績を上げることができた。また、歴史民俗資料館の建物の登録有形文化財への登録について、文化審議会が令和2年3月19日に文部科学大臣に答申したことにより、文化財としての価値が国に認められたと考えられる。</p> <p>榛名歴史民俗資料館は、榛名林間学校の児童が自然体験学習での施設利用や群馬ブレDCに協賛し無料入館にしたため、入館者数が急増し目標値を上回った。</p>																																																
今後の方針	<p>地元根ざした資料館として特色ある企画展等を開催し、入館者の増加と満足度向上に努めていく。</p>																																																



事業名	観音塚考古資料館運営事業（取組 5-9・5-10）																																	
事業の目的	誰もが身近に考古学習に親しめるよう、観音塚古墳出土品を中心とした企画展、体験学習の場を提供する。																																	
実施状況	<table border="1" data-bbox="375 360 1425 846"> <thead> <tr> <th colspan="3">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">常設展 「観音塚古墳の世界」</td> </tr> <tr> <td>ミニ企画展 平成 31. 4. 4～令和元. 9. 29</td> <td colspan="2">入館者 5, 221 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">「八幡台地の遺跡～観音塚古墳の歴史的環境を探る」</td> </tr> <tr> <td>企画展 令和元. 10. 5～12. 1</td> <td colspan="2">入館者 2, 336 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">第 3 1 回企画展「群馬に古墳が造られ始めたころ～古墳成立期の様相と古墳出現の背景を探る」</td> </tr> <tr> <td colspan="3">講演会、石室ガイドツアー、石のまが玉づくり、ガラスのまが玉づくり、土鈴づくり、金工アクセサリーづくり、歴史ウォーク、古墳めぐりバスツアー、団体施設見学、小学校社会科学習、やるベンチャー</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="416 898 852 1223" style="text-align: center;">  <p>企画展「群馬に古墳が造られ始めたころ」</p> </div> <div data-bbox="935 898 1374 1223" style="text-align: center;">  <p>歴史ウォーク</p> </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">◆観音塚考古資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="375 1323 975 1518"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>11, 000 人</td> <td>7, 900 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>9, 000 人</td> <td>7, 700 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>8, 000 人</td> <td>9, 183 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容			常設展 「観音塚古墳の世界」			ミニ企画展 平成 31. 4. 4～令和元. 9. 29	入館者 5, 221 人		「八幡台地の遺跡～観音塚古墳の歴史的環境を探る」			企画展 令和元. 10. 5～12. 1	入館者 2, 336 人		第 3 1 回企画展「群馬に古墳が造られ始めたころ～古墳成立期の様相と古墳出現の背景を探る」			講演会、石室ガイドツアー、石のまが玉づくり、ガラスのまが玉づくり、土鈴づくり、金工アクセサリーづくり、歴史ウォーク、古墳めぐりバスツアー、団体施設見学、小学校社会科学習、やるベンチャー			年度	目標	実績	平成 29 年度	11, 000 人	7, 900 人	平成 30 年度	9, 000 人	7, 700 人	令和元年度	8, 000 人	9, 183 人
事業の内容																																		
常設展 「観音塚古墳の世界」																																		
ミニ企画展 平成 31. 4. 4～令和元. 9. 29	入館者 5, 221 人																																	
「八幡台地の遺跡～観音塚古墳の歴史的環境を探る」																																		
企画展 令和元. 10. 5～12. 1	入館者 2, 336 人																																	
第 3 1 回企画展「群馬に古墳が造られ始めたころ～古墳成立期の様相と古墳出現の背景を探る」																																		
講演会、石室ガイドツアー、石のまが玉づくり、ガラスのまが玉づくり、土鈴づくり、金工アクセサリーづくり、歴史ウォーク、古墳めぐりバスツアー、団体施設見学、小学校社会科学習、やるベンチャー																																		
年度	目標	実績																																
平成 29 年度	11, 000 人	7, 900 人																																
平成 30 年度	9, 000 人	7, 700 人																																
令和元年度	8, 000 人	9, 183 人																																
評価検証	<p>入館者数は前年度と比較して大きく増加し、年度目標を達成することができた。これは、まず春季ミニ企画展及び秋季企画展開催による歴史愛好者等の着実な入館があげられ、両企画展開催中の入館者数は前年度より増加している。また、スタンプラリーなど文化財保護課他館との合同事業の実施や、県主催事業との連携により、年間を通して幅広い世代に歴史に親しむ場を提供できたためと考えられる。</p>																																	
今後の方針	<p>学校教育・社会教育関連施設、文化振興・観光関連部局と連携し、教育施設として有効に活用されるよう努める。歴史愛好者のニーズに応えられるよう企画展等の充実を図るとともに、メディアへの情報提供など積極的な広報活動を心掛け、館の認知度を高める。</p>																																	

事業名	かみつけの里博物館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）																																																								
事業の目的	国指定史跡保渡田古墳群とその周辺遺跡にかかわる考古資料の収集・保存・調査研究を行うとともに、常設展示・各種展覧会や体験学習等を通して、学習の場を提供する。																																																								
実施状況	<table border="1" data-bbox="389 360 1452 875"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">体験型企画展「わくわく古代体験 '19」令和元. 7. 20～8. 31</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>43日間</td> <td>入館者 10,282人</td> </tr> <tr> <td colspan="4">第28回特別展「飾り大刀」令和元. 12. 14～3. 2</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>79日間</td> <td>入館者 9,919人</td> </tr> <tr> <td>歴史講座「かみつけ塾」</td> <td>参加者</td> <td>869人</td> <td>開催数 11回</td> </tr> <tr> <td>石の勾玉作り</td> <td>参加者</td> <td>2,772人</td> <td>製作数 2,772個</td> </tr> <tr> <td>総合的学習の時間</td> <td>参加者</td> <td colspan="2">上郊小学校6年生 延 228人</td> </tr> <tr> <td colspan="4">第10回かみつけの里古墳祭り 令和元. 10. 19（実行委員会主催）</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">入場者 6,000人</td> </tr> <tr> <td colspan="4">・「王の儀式再現劇」上演、古代米試食、勾玉・埴輪作り体験、物販</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="445 936 887 1234"> </div> <div data-bbox="940 936 1382 1234"> </div> </div> <p style="text-align: center;"><b>◆かみつけの里博物館入館者数</b></p> <table border="1" data-bbox="413 1339 995 1534"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>30,000人</td> <td>37,825人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>42,000人</td> <td>43,210人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>40,000人</td> <td>54,159人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容				体験型企画展「わくわく古代体験 '19」令和元. 7. 20～8. 31						43日間	入館者 10,282人	第28回特別展「飾り大刀」令和元. 12. 14～3. 2						79日間	入館者 9,919人	歴史講座「かみつけ塾」	参加者	869人	開催数 11回	石の勾玉作り	参加者	2,772人	製作数 2,772個	総合的学習の時間	参加者	上郊小学校6年生 延 228人		第10回かみつけの里古墳祭り 令和元. 10. 19（実行委員会主催）						入場者 6,000人		・「王の儀式再現劇」上演、古代米試食、勾玉・埴輪作り体験、物販				年度	目標	実績	平成29年度	30,000人	37,825人	平成30年度	42,000人	43,210人	令和元年度	40,000人	54,159人
事業の内容																																																									
体験型企画展「わくわく古代体験 '19」令和元. 7. 20～8. 31																																																									
		43日間	入館者 10,282人																																																						
第28回特別展「飾り大刀」令和元. 12. 14～3. 2																																																									
		79日間	入館者 9,919人																																																						
歴史講座「かみつけ塾」	参加者	869人	開催数 11回																																																						
石の勾玉作り	参加者	2,772人	製作数 2,772個																																																						
総合的学習の時間	参加者	上郊小学校6年生 延 228人																																																							
第10回かみつけの里古墳祭り 令和元. 10. 19（実行委員会主催）																																																									
		入場者 6,000人																																																							
・「王の儀式再現劇」上演、古代米試食、勾玉・埴輪作り体験、物販																																																									
年度	目標	実績																																																							
平成29年度	30,000人	37,825人																																																							
平成30年度	42,000人	43,210人																																																							
令和元年度	40,000人	54,159人																																																							
評価検証	<p>年間入館者数は前年比約25%増で、開館以来最高となった。各月の入館者数を前年度と比較すると、全ての月で増加している。特に2～3月に大きく増加しており、この時期に放送されたテレビCMの影響が大きかったといえる。また、各種メディアに取り上げられる機会も多く、ツアー団体客は増加傾向である。</p> <p>更に、これまでに行ってきた教育普及活動の結果、学校での利用も定着しており、市内・県内はもちろん、東京や神奈川など首都圏からも見学に来ている。このほか、「ボランティア会」や「王の儀式の会」など関連する市民団体が複数あり、博物館が地域交流の拠点となっている。</p>																																																								
今後の方針	館蔵品について活用を図りながら適切な管理を行う。また、魅力ある展覧会を行うとともに、楽しく学べる事業実施にも努める。歴史遺産を確実に継承していくため、市民との協働により事業を実施していく。																																																								

事業名	多胡碑記念館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）											
事業の目的	多胡碑を中心とした資料等を収集・展示し市民の理解を深めるとともに、山上碑・金井沢碑を含めユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の情報発信を図る。											
実施状況	<b>事業の内容</b>											
	<p>常設展示</p> <p>国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示。</p>											
	<p>企画展示</p> <p>こどもためのコウズケサンピ 平成 31. 4. 27～令和元. 6. 30 入館者 3, 102 人</p> <p>上野三碑写真展 令和元. 7. 20～9. 18 入館者 2, 500 人</p> <p>第 4 2 回 企画展「多胡碑の記憶 ～建郡と正倉跡～」 令和元. 10. 31～12. 8 入館者 2, 285 人</p> <p>第 2 3 回 多胡碑記念館吉井こども書道展 令和 2. 1. 18～2. 9 入館者 580 人</p>											
	<p>上野三碑一般公開 令和 2. 3. 8 （中止）</p>											
	<p>体験事業等</p> <p>謎解き！碑文ラリー、羊毛フェルトマスコットづくり体験、万葉歌碑の拓本体験、夏季体験事業プロジェクト 8 0、野外で拓本</p>											
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="459 1187 874 1496">  <p style="text-align: center;">小学生体験の様子</p> </div> <div data-bbox="933 1187 1348 1496">  <p style="text-align: center;">団体見学の様子</p> </div> </div> <p>◆多胡碑記念館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="395 1653 965 1848"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>11, 000 人</td> <td>18, 723 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>20, 000 人</td> <td>15, 291 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>20, 000 人</td> <td>12, 945 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 29 年度	11, 000 人	18, 723 人	平成 30 年度	20, 000 人	15, 291 人	令和元年度	20, 000 人
年度	目標	実績										
平成 29 年度	11, 000 人	18, 723 人										
平成 30 年度	20, 000 人	15, 291 人										
令和元年度	20, 000 人	12, 945 人										

<p>評価検証</p>	<p>多胡碑だけでなく、上野三碑のガイダンス施設として、上野三碑のレプリカや関連資料、遺物などを常設展示し、上野三碑の研究や情報発信の場として、学校教育、生涯学習、学術及び文化の振興の場として広く活用されている。</p> <p>平成29年度は上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録を受け、来館・来場者が急増したが、30年度、令和元年度は減少傾向にある。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>上野三碑見学の拠点施設として、上野三碑に関する展示の更なる充実に努め、引き続き学校教育、社会教育、生涯学習の場としての機能を充実させる。関係団体と連携し来館・来場者へ対応するとともに、情報発信等を図っていく。</p>

事業名	吉井郷土資料館運営事業（取組 5-3・5-7・5-9）																										
事業の目的	地域の歴史・民俗資料の収集・保管及び調査・研究を行い、それに伴う講演会、体験学習等を行うことで市民が歴史的遺産に親しみ、郷土愛を育む場や機会を提供する。																										
実施状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center; background-color: #cccccc;">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 15%;">常設展示</td> <td colspan="3">1 階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、馬庭念流の資料 2 階展示室：地史、自然、考古、古代、中世、近世、近現代、民俗関係資料、多胡碑レプリカ</td> </tr> <tr> <td>企画展示</td> <td>企画展 令和元. 12. 12~2. 2. 8</td> <td>入館者</td> <td>583 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">夏休み 体験学習</td> <td>馬庭念流体験</td> <td>令和元. 8. 17</td> <td>参加者 13 人</td> </tr> <tr> <td>布ぞうりづくり</td> <td>令和元. 8. 18</td> <td>参加者 26 人</td> </tr> <tr> <td>まが玉づくり</td> <td>令和元. 8. 4</td> <td>参加者 50 人</td> </tr> <tr> <td>講演会</td> <td colspan="2">「太宰治と吉井の町医斎藤達也」 令和元. 6. 29 参加者 91 人 「多胡碑はなぜ昔を語りつづけられるのか」 令和元. 8. 31 参加者 41 人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容				常設展示	1 階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、馬庭念流の資料 2 階展示室：地史、自然、考古、古代、中世、近世、近現代、民俗関係資料、多胡碑レプリカ			企画展示	企画展 令和元. 12. 12~2. 2. 8	入館者	583 人	夏休み 体験学習	馬庭念流体験	令和元. 8. 17	参加者 13 人	布ぞうりづくり	令和元. 8. 18	参加者 26 人	まが玉づくり	令和元. 8. 4	参加者 50 人	講演会	「太宰治と吉井の町医斎藤達也」 令和元. 6. 29 参加者 91 人 「多胡碑はなぜ昔を語りつづけられるのか」 令和元. 8. 31 参加者 41 人		
	事業の内容																										
	常設展示	1 階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、馬庭念流の資料 2 階展示室：地史、自然、考古、古代、中世、近世、近現代、民俗関係資料、多胡碑レプリカ																									
	企画展示	企画展 令和元. 12. 12~2. 2. 8	入館者	583 人																							
	夏休み 体験学習	馬庭念流体験	令和元. 8. 17	参加者 13 人																							
布ぞうりづくり		令和元. 8. 18	参加者 26 人																								
まが玉づくり		令和元. 8. 4	参加者 50 人																								
講演会	「太宰治と吉井の町医斎藤達也」 令和元. 6. 29 参加者 91 人 「多胡碑はなぜ昔を語りつづけられるのか」 令和元. 8. 31 参加者 41 人																										
																											
馬庭念流体験	布ぞうりづくり																										
◆吉井郷土資料館入館者数																											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">年度</th> <th style="width: 25%;">目標</th> <th style="width: 25%;">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>4,300 人</td> <td>3,655 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>3,800 人</td> <td>2,885 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,800 人</td> <td>3,058 人</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	平成 29 年度	4,300 人	3,655 人	平成 30 年度	3,800 人	2,885 人	令和元年度	3,800 人	3,058 人														
年度	目標	実績																									
平成 29 年度	4,300 人	3,655 人																									
平成 30 年度	3,800 人	2,885 人																									
令和元年度	3,800 人	3,058 人																									
評価検証	<p>入館者数は微増であった。企画展は、「中山道の脇往還と吉井」と題して、かつて多くの人に利用され栄えた、中山道の脇往還から吉井の歴史について考察した。</p> <p>また、昨年に引き続き夏休み体験学習は、「まが玉づくり」、「布ぞうりづくり」と群馬県指定重要無形文化財「馬庭念流」の古武道を小学生に体験してもらうことで地域の歴史と文化についての理解を広めることができた。</p>																										
今後の方針	<p>地域に根ざした資料館として、収蔵品を整理、活用を図りながら特色ある事業を実施し、更に地域住民に愛される活動を続けていく。</p>																										

事業名	埋蔵文化財センター整備事業（取組 5-10）
事業の目的	市町村合併により大幅に増加する出土品等の資料を集約して体系的に保存・管理し、生涯学習や学校教育と連携した活用を推進するための拠点施設として、埋蔵文化財センターの整備を行う。
実施状況	収蔵量や保管状態の再確認を行った結果、増加する出土品に対応するため、新たな保管施設が必要であることが確認された。
評価検証	収蔵すべき資料の量を把握し、各地の先進事例について情報収集してきたが、今後は既存の市有施設を改修して活用できないか検討していく。
今後の方針	活用可能な既存の市有施設情報の収集を継続していく。



## V 点検・評価結果に対する学識経験者の意見

### 1 はじめに

高崎市の教育行政は、「高崎市教育大綱」に掲げる施策の視点に基づいて、年度ごとに「高崎市教育行政方針」において具体的な取組の内容や目標を設定し、その取組に対する成果を「教育委員会の点検・評価報告書」により評価している。

教育行政の指針「高崎市教育ビジョン」の計画期間が平成29年度をもって満了し、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により新たな教育委員会制度がスタートする中で、市長と教育委員会で構成する総合教育会議により、高崎市の総合的な教育施策の目的や方針である「高崎市教育大綱」が新たに定められ、平成30年度実施事業以降の点検・評価は「高崎市教育大綱」に基づいて体系化された施策を対象としている。

新たな制度への移行に伴い、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保に加え、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携の強化など、これまで以上に教育環境への柔軟な対応が求められている。したがって、事業の成果を評価し、可視化することで住民への説明責任を果たすとともに、評価結果を活用して事業目的の再構築や事業内容の改善につなげるため、この点検・評価報告を確実に実施していくことが、より一層重要になっていると考えられる。

今回の点検・評価は、「高崎市教育大綱」に掲げる施策の視点の下、「2019年度高崎市教育行政方針」において設定された詳細な事業に対して実施している。

ここでは、各施策の視点ごとに点検・評価についての検証を行うものとする。

### 2 5つの施策の成果と課題について

#### ★施策の視点1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

幼・保・小連携推進事業では、研修会等の参加者数の実績が、減少傾向にはあるものの、幼稚園や保育所（園）の職員に必要な指導法や喫緊の課題が取り上げられており、概ね目標を達成していると認められる。今後も、子どもたちが幼稚園や保育所（園）から小学校へ円滑に移行できるよう、幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校の連携を深めていただきたい。また、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うなど、幼保小連絡協議会の活動を通して「幼児期の終わりまでの育ってほしい姿」を共有し、小学校からのカリキュラムの工夫につなぐことができたと考えられることから、今後も滑らかな接続に向けた取組の充実を期待したい。

子どもの学ぶ意欲向上事業では、各学校で「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行っており、その結果授業がわかると答えた児童生徒が8割以上いる学校の割合が100%に達した。ALTの全校配置や小学1年生からの英語教育指導において、結果的に全国学力・学習状況調査における中学校の英語が全国トップレベルとなったことは、大変評価できる。今後も多くの児童生徒が、授業がわかると答えられるよう、引き続き、基礎学力と学ぶ意欲の向上に努めるとともに、学力調査の結果を活用して個に応じた指導を行う等の指導法の工夫・改善やICTなどの教育機器を使用した授業を継続して行っていく必要があると考える。

児童生徒の学力補充事業では、「イングリッシュサマースクール」、「イングリッシュフェスタ」、「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」で参加者数が増加し、「イングリッシュサマーキャンプ」では定員の2倍以上の申し込みがあり、児童生徒の興味を引く事業として、目標値を達成することができた事業が多かった。学校で学んだことを児童生徒が学校以外で生かし、自発的に学習しようと



する場となるよう、変化していくニーズに応える事業形態や内容の改善を続けることで、一層魅力ある事業となるよう努められたい。

英語教育指導事業では、令和元年度においても全校に配置されたALTによる授業時間数が目標を超える水準を維持しており、ALTが受講する研修の充実やチームティーチングにより授業内容の向上にも取り組んでいる。英語教育の教科化において、英語への興味や関心を高め、英語学習に意欲的に取り組む児童生徒を育成するために、ALTの授業研修を通して小中学校の連携を強化し、9年間の英語教育指導が円滑に行われるよう、一層の英語教育の充実に努めることを期待する。

高崎市学力アップ推進事業では、全ての小中学校区で地域運営委員会を開催するとともに、地域運営委員会の代表を集めた全体会を開催した。全体会で地域の取組の発表やグループ協議を行い、取組の工夫等を共有したことで、事業の質的向上と事業の推進ができたと考えられる。学力アップ大作戦は児童生徒やボランティアの参加数が微減だが、事業を委託方式にし、地域の創意工夫がより発揮できる体制にしたことは、本事業の充実に資すると捉えられ、評価できる。また、中学生休日学習相談ステーションは、1回あたりの参加人数が平成27年度の事業開始以来毎年増えており、成果を上げていると認められる。生徒が参加しやすい学習形態であり、繰り返し利用する生徒が一定数いることが要因と考えられる。今後も、児童生徒の確かな学力の向上に向けて、地域や家庭との連携を更に進め、地域の教育力を生かした取組を展開していくことが必要である。

いじめ防止対策事業では、平成24年から取り組んでいる「いじめ防止プログラム」に基づいた各校の取組が根付いてきているものと実感する。教育委員会が実施している担当教諭研修や子どもたちの会議や研修会は、市全体において、いじめ防止に向けた取組が推進されていると評価できる。学校内にいじめ防止の担当を置くことで、学校のいじめ防止体制を構築することができ、学校のいじめ防止の取組を推進させるものと考えられる。令和元年度の取組の中で、教員と児童生徒の研修内容や会議の協議内容を同一にしたことは、いじめ防止に対して教師と児童生徒が同じ目線で考え、取り組むことができ、学校が一丸となっていじめ防止に取り組む連携が図れるものと評価できる。今後は、新型コロナウイルス感染症による差別やいじめなども懸念されることから、多方面からのいじめ防止に向けた取組を継続、充実させていくことを期待する。

やるベンチャーウィーク推進事業では、参加生徒数は概ね目標を達成し、アンケートで「役に立った」と答えた生徒の割合も高い水準を維持しており、事業は成果を上げていると認められる。生徒の生きる力、豊かな人間性や社会性の育成につながる事業となるよう、引き続き地域や事業所と連携し、事業の充実を図られたい。

「気になる子」対策事業では、補助金や人的配置を通じて、私立幼稚園、公立幼稚園が行う「気になる子」への支援の充実が図られていると認められる。また、近年では肢体不自由や病弱・身体虚弱等の障害を抱えた子どもへの支援が必要となっており、引き続き実情に応じた事業の実施を期待する。

読書活動推進事業では、各校が学校図書館指導員を活用し、さまざまな工夫をすることで、学校図書館の「読書センター」、「学習・情報センター」としての機能の充実を図っている。各校においては、国語や総合的な学習の時間を中心に教師と学校図書館指導員によるチームティーチングが行われるようになってきており、「学習・情報センター」としての機能充実が図られている成果と考えられる。

学校・家庭・地域連携事業では、公募により評議員の人選を行った学校園数も前年度より増え、学校評議員会の出席者数が目標値を概ね達成しており、事業を通して広く地域の意見を聞く環境づくりを推進していると認められる。引き続き、地域に開かれた学校づくりに向けて、事業に対する検証を行い、学校・家庭・地域社会のより一層の連携を図られたい。

学校教育力向上対策事業では、人権教育講演会において、女性と子どもの人権をテーマとし、人権を理解し守る際の学習や教育の重要性を説いており、受講者にとって学校教育と人権を結びつけて考えられる内容となっている。また、参加者数も目標には至らないものの昨年度と比べて増加しており、教職員の質的向上に寄与しているものと評価できる。今後も研修内容の充実を図り、子どもたちの生きる力の育成につながる取組となるよう、より一層効果的な事業となることを期待する。

通級指導教室推進事業では、改善により退級した児童生徒が77人おり、事業は成果を上げていると認められる。年々増加する通級児童生徒に対応するため、堤ヶ岡に拠点を増設したことにより、子ども一人ひとりのニーズに応じた指導が行えるようになった。通級指導による、障害の軽減・改善の成果は通常の学級における授業や生活においても結果が期待できる。

教育調査研究・研修事業における研修受講者数は、目標の92%の達成ができた。また、受講者が充実した研修であると答えた割合が高い水準を維持していることから、今後も、教育の今日的課題を踏まえて、受講者のニーズをとらえた研修講座を実施し、事業の充実を図りたい。

適応指導教室推進事業では、適応指導教室に通室した児童生徒94人のうち、28人が週一日以上学校へ登校できたことから、事業は一定の成果を上げていると認められる。引き続き、各学校との連携を深めながら、不登校に悩む児童生徒の社会的自立や学校復帰に結びつく取組を行っていく必要がある。

学力向上推進事業では、シラバスに沿った授業を確実に行うことで主体的な学習態度の育成に結びつけていると認められる。引き続き、グループ学習やペア学習等を取り入れた言語活動重視の授業や、実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、生徒の思考力・表現力の一層の向上を期待する。

キャリア教育推進事業では、体験学習の実施回数は目標を達成し、「役に立った」と答えた生徒の割合は引き続き100%を維持しており、事業は成果を上げているものと認められる。

国際教育推進事業では、新企画として台湾研修を実施するなどの工夫が見られ、海外派遣事業に参加したことが「役に立った」と答えた生徒の割合が100%を維持するなど、事業内容の充実が認められる。引き続き、英語活用力の向上を図り、国際化していく社会に対応できる生徒の育成を目指して取組を継続することを期待する。

## ★施策の視点2 子どもたちの心身の健康と体力の向上

児童生徒等健康管理対策事業では、永久歯う歯及び歯肉炎等治療完了者率は毎年90%を超えており、健康診断や検査結果を事後の保健指導につなげていることから、目的に沿って実施されていると認められる。今後とも対象者全員への実施を目指し、未受検者への個別対応など課題について取り組む必要がある。

学校保健充実事業では、各講演会の実績が一定を保っており、「命の大切さ」出前授業については、実施希望の学校も多く、ニーズに沿った内容となっていると認められる。引き続き希望する学校ができるかぎり受講できるよう、実施方法の工夫や関係機関との調整を図り、事業の更なる発展に期待したい。

部活動充実事業では、各中学校に部活動指導員を配置することで、教職員の勤務時間や心理的負担の軽減、部活動の質的向上が図られていると考えられる。部活動指導員と外部指導協力者を各校の部活動運営の中へ位置づけることで、部活動へ期待する保護者や生徒の実情に合った活動となるため、更に地域の関係団体と連携し取組を推進していくことを期待する。

学校体育充実事業では、体育の授業改善や小学校の各種大会を通して、できる喜びを味わい、運動に親しむ児童生徒の育成が行われていることは評価できる。全学年における新体力テストの実施により、各校の課題が明確となる中、課題解決に向けた具体的な方策を検討していく必要があると考える。今後も中体連に対する大会運営の協力や、県・関東・全国大会における選手派遣に向けた支援等に継続して取り組まれない。

交通教室事業では、交通安全教室小学3年生受講者数の参加率が毎年99%を超えており、自転車事故総数の実績も目標を上回り減少傾向であることから、引き続き和田橋交通公園での交通安全教室を中心に、小学生における自転車交通事故ゼロを目指して事業を推進していくことを期待する。

給食充実事業では、地場農作物の使用率が目標を下回る状態が続いており、使用促進に向けた工夫を続けることで、児童生徒が地元の農産物・農業への関心を高める機会の創出に努められたい。栄養教諭・栄養士の食指導回数は、実績が減少したが、計画的に指導を実施し、実施回数を伸ばしていけるよう期待する。

給食運営事業では、推定値による給食残渣量において中学校及び特別支援学校の残渣は目標値より少なかった一方で、幼稚園及び小学校では目標値を上回った。目標値の達成を目指し、今後とも食育を意識した取組を続ける必要がある。

小学生自然体験活動事業では、榛名林間学校榛名湖荘において、市内全小学5年生が榛名山周辺の自然に触れ、集団宿泊体験を行っており、心身ともに健康な子どもの育成につながる取組であるとともに地域の豊かな自然を活用した教育として評価できる。今後とも、より質の高い自然体験活動を提供し、地元の豊かな環境を理解するよい機会となるよう、事業について一層の工夫・改善を行うことを期待する。

「健康教育」啓発事業では、開催結果の検証や事業内容の検討を通じて、効果的に事業目的の達成ができるよう、事業の充実を図られたい。

### ★施策の視点3 安全で多機能な教育環境づくりの推進

施設の整備については、箕輪小学校校舎改築工事の第二期工事が着手され、事業は概ね計画どおりに実施されていると評価できる。子どもたちの安全で快適な教育環境を創出するため、今後も引き続き、適切な進捗管理の下、着実に事業を進めるとともに、優先順位を付けて予算を計画的に配分し、事業に取り組むことを期待する。

学校体育施設開放事業では、多くの市民が生涯スポーツ活動の場として利用することができた。市民がスポーツを身近に感じ親しむことができるよう、引き続き事業の周知に努め、安全にスポーツ活動が行われるよう安全管理の徹底に努められたい。

### ★施策の視点4 地域力を育む社会教育の充実

地区推進体制整備事業では、推進員が関わった地域活動の参加人数は前年度より減少しており、より一層、地域での推進員の役割や活動について定着を図る必要がある。引き続き、各地域の課題を共有し、地域活動への参加を効果的に促す取組を行い、生涯学習の推進に努められたい。

公民館運営事業では、各公民館が地域の特色を生かしたさまざまな事業に取り組んでいることは、地域住民が公民館を拠点として地域力を育むことにつながるものであると評価できる。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、公民館利用者、公民館主催事業への参加者は、前年度より減少しているため、より一層、地域の関係団体との連携や事業の充実を図り、公民館が地域の活動の拠点として活用さ

れるよう努められたい。

生涯学習推進事業では、生涯学習推進研究事業は、前年度より参加者数が減少し、目標値に到達しなかった。まちづくり出前講座は目標値には僅かに届かなかったものの、参加者は前年度より増加しており、事業は定着してきていると認められる。地域人材登録活用事業は新型コロナウイルス感染症の影響により受講者数が減少した。各事業について、学習活動を始めるきっかけや、個々の活動の支援に結びつくよう、引き続き内容の充実と周知方法の検討を図られたい。高崎学検定は受検者数が増加しており、今後も新たな受検につながるよう、市民の関心につながる取組を期待する。また、生涯学習情報提供サイト「まなびネットたかさき」については、更なる運用の拡充に取り組むことで、市民活動の支援や情報公開の推進に努められたい。

人権文化創造事業では、それぞれの事業において参加者数の目標値を超えることができなかったが、参加者の満足度の高さから事業内容のよさが分かる。事業内容について、多面的に調査、研究、検討を行うことで、涵養な事業となるよう努められたい。

家庭教育支援事業では、昨年度に比べ参加者数の実績が減少したが、参加者の満足度を見ると講座内容は適切であると認められるので、子育て世代への周知方法を再度調査、研究、検討するよう努められたい。子育てに関する必要な情報、悩みや不安の解消に向けて、更なる講座の工夫を図られたい。

視聴覚教育事業では、資料を保存するうえで16ミリフィルムの点検とメンテナンスが重要である。利用者が活用しやすい環境づくりを保つとともに、16ミリフィルムやDVDの内容を紹介する場面をホームページ「まなびネットたかさき」などに設けることでコンテンツが持っている魅力を伝えられることを期待する。更なる広報活動に努められたい。

公民館整備事業では、予定どおり八幡公民館改築工事を行った。地域づくりの活動拠点である公民館の安全性・利便性を確保するため、今後も計画的な整備事業に努められたい。

社会教育施設改修事業では、市内17か所ある交流館の修繕・工事を実施した。施設の安全性・利便性を確保するため、計画的な補修と適切な管理に努められたい。

市民活動センター管理運営事業では、団体登録数は微増した。年度末に新型コロナウイルス感染症関連で団体が利用を取りやめたことにより、利用者数は大きく減少した。今後は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、施設が有効に活用されるように努められたい。

図書館管理運営事業では、個人貸出点数及び貸出人数は、近年伸び悩みはあるものの一定の水準を保っていると認められる。市民生活に寄り添える図書館として、所蔵資料やサービスの充実に努め、市民の生涯学習を支援し、更なるレファレンスサービスの向上を図られることを期待する。

関係諸機関との連携事業は、実際に利用したパックを参考にして学校側で購入するといった事例も見受けられており、一定の効果が認められる。今後の更なる学校図書館の充実の一助となれるよう努められ、子ども読書活動の推進を図られたい。

## ★施策の視点5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

文化財保存活用地域計画の策定・推進事業については、計画策定に向けた検討を行うため、情報収集や資料整理作業を着実に進められたい。

日高遺跡保存整備事業では、JR上越線南側区域の整備を着実に進めるとともに、供用開始区域の積極的な活用を通して、市民の関心を高めるよう努められたい。

箕輪城跡保存整備事業では、市民の関心が高まる中で着実に整備工事が進められており、引き続き計画的な事業推進と整備に努められたい。

北谷遺跡保存整備事業では、事業が着実に推進されており、今後も史跡指定地の公有地化を進め、市民の関心に応える取組となるよう検討されたい。

山名古墳群保存整備事業では、山上碑等の史跡と連動した効果的な活用方法を探るとともに、整備計画の検討に努められたい。

「世界の記憶 上野三碑」関連事業では、ユネスコ「世界の記憶」登録以前と比べ見学者数が増加しているものの、登録直後と比べると減少しているため、引き続き県や地元ボランティア団体等との連携を強化し、貴重な史跡の継続的な普及につながる有効な活用が行われることを期待する。

埋蔵文化財調査事業では文化財展入場者数が前年度と比べて減少し、文化財管理事業では上野三碑一般公開見学者数は新型コロナウイルス感染症拡大防止により公開日数が1日少なかったため、前年度と比べて減少しているが、上豊岡茶屋本陣見学者数及び文化財作文コンクールの応募者数は前年度と比べて増加している。これからも事業内容や企画をより一層充実させることで、市民の文化財に対する関心の高まりに寄与する事業となるよう努められたい。

多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業及び上野国分尼寺跡範囲確認調査事業では、調査等が着実に進められ、成果を上げておりと認められる。史跡としての価値を高めるとともに、重要性等について広く周知に取り組みられることを期待する。

文化財調査事業では、調査等が着実に進められるとともに、指定文化財の説明板の設置等による文化財の活用促進が図られており、今後も文化財の保護・活用についての取組を一層進められたい。

歴史民俗資料館運営事業では、歴史民俗資料館では入館者は昨年度と比べ増加しており、榛名歴史民俗資料館では榛名林間学校に参加する児童の利用等により入館者は昨年度に引き続き増加している。歴史民俗資料館の登録有形文化財への登録について令和2年3月19日に文化審議会が文部科学大臣に答申しており、文化財としての価値が国に認められたものと考えられる。より一層充実した館の運営に努められたい。榛名歴史民俗資料館では、増加する入館者へ充実した対応を図られるよう期待する。

観音塚考古資料館運営事業では、入館者は昨年度と比較して大きく増加している。引き続き、歴史愛好者の関心に応える企画展を開催し、他館との連携を図るとともに、広報活動を積極的に行うことで、更なる事業の充実に努められたい。

かみつけの里博物館運営事業では、幅広くメディアに取り上げられた結果、開館以来最多の入館者数を記録し、大きな成果を上げておりと認められる。メディアによる周知の効果を限定的なものにとせず今後も活用して県外からの集客を図るとともに、引き続き、地域との連携を強化し、展覧会を充実させることで、より一層効果的な取組となることを期待する。

多胡碑記念館運営事業では、入館者数はユネスコ「世界の記憶」に登録された当初と比較すると減少しているが、登録前と比較すると増加している。今後とも、企画展示や体験事業を充実させ、広く情報発信を行うことで、記念館が更に有効活用されるよう努められたい。

吉井郷土資料館運営事業では、企画展を開催し、常設展の充実を図ったことにより、入館者数は昨年と比べ増加している。引き続き、地域に根ざした資料館として、特色ある展示や体験学習を行い、効果的な周知活動に努められたい。

埋蔵文化財センター整備事業では、引き続き既存の市有施設等の使用状況について情報収集を行い、施設の改修や活用の方法について継続的な検討に努められたい。

### 3 おわりに

以上、5つの施策の視点ごとに実施された個々の事業の点検・評価結果についての検証を行ってきたが、全体としていずれの事業も着実に成果を上げており、まずは、事業に携わった関係者の尽力に敬意を表したい。最後に、昨年度の点検・評価報告書で指摘させていただいた成果指標の構築の観点から、いくつかの所見を述べておきたい。

冒頭で述べたように、平成30年度から、高崎市の教育行政は、「高崎市教育大綱」（対象期間は5年間に掲げられた総合的な教育施策の目的や方針に基づき年度ごとに策定される「高崎市教育行政方針」によって各年度の事業が具体化されることとなった。これに伴い、平成29年度までは7つあった施策の視点が5つに整理し直されるとともに、これらの施策の視点に基づいて実施される個々の事業も、その多くを平成29年度から継承しつつも、平成30年度からは、新たな事業項目として、「いじめ防止対策事業」、「気になる子対策事業」、「読書活動推進事業」、「部活動充実事業」、「社会教育施設改修事業」、「世界の記憶 上野三碑 関連事業」が付け加えられた。これらの新たな事業項目は、検証の対象とされることによって、事業目的が関係者により明確に意識されるとともに、その事業の成果を可視化するための指標の構築につながられ、その評価が社会に承認されるプロセスの途上にあるといえる。

平成30年度から新たに事業項目として付け加えられた事業のうち、「いじめ防止対策事業」については、いじめを認知した後の早急な対応だけでなく、いじめの未然防止のために教師と児童生徒たちが課題を共有する仕組みの構築に取り組まれている点は評価できる。こうした事業は、さまざまな事情によって社会生活に困難や不安を感じる子どもたちを支援する事業である「気になる子対策事業」、「通級指導教室推進事業」、「適応指導教室推進事業」等とともに、全ての子どもたちが人間としての尊厳を等しく認められ社会人に成長していくことができる社会の実現のために、今後も積極的に取り組んでいただきたい。こうした観点からすると、令和元年度に金古小学校に新設された通級指導教室の堤ヶ岡分室が、令和2年度からは堤ヶ岡教室として独立していくことは、大いに評価すべきことである。

また、「部活動充実事業」においては、令和元年度から新たな成果の指標として、「教職員の負担軽減につながったと答える学校の割合」が示されるようになり、事業目的により適合した点検・評価が行われているものと思われる。「教職員の負担軽減につながったと答える学校の割合」の実績が、目標の100パーセントに到達できるよう更なる取組を期待したい。「読書活動推進事業」も、成果の指標として、昨年度の「学校図書館利用頻度（月ごと）」に代わって、新たに「教員と学校図書館指導員が連携した授業の実施状況」が採用され、これも事業目的により適合した点検・評価が行われるようになったものと評価できる。

成果の可視化のための指標の構築は、新たな事業にとって不可欠であるが、平成29年度以前から継続して取り組まれている事業にあっても、必要に応じて成果の指標の再構築が求められることはいうまでもない。こうした観点からすると、「教育調査研究・研修事業」、「学力向上推進事業」、「人権文化創造事業」、「家庭教育支援事業」において、成果指標が見直されたことは評価できる。「教育調査研究・研修事業」では従来の指標である「充実した研修内容であると答えた受講者数の割合」に加えて「研修への参加者数」が、「学力向上推進事業」では「基礎的・基本的な内容を身に付けることができたと考えている生徒の割合」が、「人権文化創造事業」では「心豊かな地域づくりのための懇談会が参考になったと答えた参加者の割合」が、「家庭教育支援事業」では「家庭教育関連講座の満足度」が、それぞれ新たな成果の指標として示されている。新たに設定された成果の指標の全般的な特徴としては、「参加者数」などの量的な指標に加えて、「満足度」といった質的な観点からの評価が採用されつつあるようである。確かに、研修会への参加者数などの量的な指標の重要性は否定できないが、それがどの程度各事業の質的なレベ

ルの高さによって支えられているのかを検証することは今後より一層重要性を増すことになると思われる。一定の量的目標が達成されているような事業にあってはなおさら、事業の継続のために質的な観点からの評価をより高めていく必要があると思われる。

さて、ここまでは平成30年度以降の新たな事業や、新たに見直された成果の指標を中心に述べてきたが、平成29年度以前から継続して取り組まれてきた事業において、その蓄積が成果を結びつつあることにも触れておきたい。特に、「英語教育指導事業」においては、平成29年度以来、全ての小学校、中学校、高等学校にALTが配置されているだけでなく、ALTの研修の充実や系統性のある指導計画の作成を通じて、組織的に教育目標の明確化と共有が図られてきたことは高く評価できる。文部科学省が公表している資料「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について」を見ると、「英語の勉強は好きか」「英語の授業はよく分かるか」と平均正答率の関係があるようであり、児童生徒たちの英語の授業に対する満足度が、言い換えれば質的な側面が、他の教科よりも学力の向上につながる可能性が高いようである。英語への興味関心と英語の授業の理解度を高める機会として、学校における授業とともに、「児童生徒の学力補充事業」として実施されている「イングリッシュサマースクール」や「イングリッシュサマーキャンプ」などの一層の充実を期待したい。

また、令和元年度は、長年継続的に進められてきた文化財の調査研究事業が一定の成果を上げたことにも触れておきたい。多胡郡正倉跡が国指定史跡となったことや、歴史民俗資料館の建物が国登録有形文化財に登録される運びとなったことは、「多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業」及び「歴史民俗資料館運営事業」の大きな成果である。遺跡などの調査研究事業は、年度単位の事業進捗率という成果の指標からすれば数パーセントではあるが、確実な成果を上げられたことは高く評価されるべきであり、また改めて継続的な事業の重要性を認識させられた。「かみつけの里博物館運営事業」は、記録的な入館者数を打ち出したが、これも長年にわたる地道な調査研究とその間に着実に培われた地域交流の拠点としての機能があってはじめて可能になったといえよう。

以上のように、平成30年度以降の新規の事業にあっても、そしてまた平成29年度以前からの継続の上に実施されている事業にあっても、成果の指標の構築と見直しまでも含めて、熱心に取り組まれていることが伺え、今後の事業の更なる質的向上を期待したい。

公立大学法人高崎経済大学  
経済学部教授 唐澤達之



## VI 点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性

本報告書に記載した点検・評価は、令和元年度の教育行政方針に掲げられた取組について実施したもので、5つの施策の視点に基づく事業の実施状況等についての評価検証を行いました。

令和元年度における各事業の実施状況については、それぞれの事業が概ねその目的に沿って実施され、成果を上げていると認められます。なかでも、多胡郡正倉跡や歴史民俗資料館、かみつけの里博物館など、文化財に関する事業において特筆すべき成果が上げられました。あわせて、「子どもの学ぶ意欲向上事業」や「英語教育指導事業」をはじめとした取組が、全国学力・学習状況調査における一定の成果に結びついており、いずれも継続して取り組んできた事業が成果につながったものと考えられます。

しかしながら、参加者数や利用者数等が目標に達していない事業もあり、点検・評価の検証結果を生かして、より一層の改善を図っていく必要があります。

今回の点検・評価の結果から、着実に取組を続けてきた事業に成果があった一方で、事業を継続する中で成果を可視化する指標を再検討していく重要性も認識できます。「高崎市教育大綱」による新たな体系として2年目となる令和元年度の事業においては、その前年度の点検・評価の結果を受けて、多くの事業において評価の指標を再検討する試みが行われました。学識経験者からの提言のとおり、質的な観点から評価する指標を取り入れていく必要性が高まっていることを受け、社会状況に合わせた効果的な点検・評価を実施することで、「教育と人づくり」の実現と更なる教育行政の充実に向けた取組を進めてまいります。

## 生涯学習都市宣言

わたくしたち高崎市民は  
生きとし生けるものが共に生き  
自然と人間と経済の調和する  
文化の香り高い  
豊かなまちづくりをめざします

ひとりひとりが  
自らの人間性を高めるため  
生きがいのある人生を求めため  
あすをひらく意欲に燃えて  
生涯学び続けるよう努めます

ここに  
いつでも どこでも だれでも  
たのしく学べるまち  
「生涯学習都市高崎」を宣言します

平成7年12月2日制定

## 人権尊重都市宣言

人はだれでも、一人ひとりかけがえのない存在として尊重され、豊かに、健康で幸せな生活を営む権利をもっています。この基本的人権は、いかなる理由があっても侵害されるものではありません。

わが国では、日本国憲法に明示されている基本的人権の確立のため、人権擁護のさまざまな努力が続けられてきました。いまや、地球規模の交流時代の中で、人権の尊重がいつそう強い社会的要請にまで高まっています。

私たちは、すべての市民の人権を等しく保障するために平和及び人権尊重について、共に学び行動し、明るい民主的社会の実現を図る必要があります。

ここに、私たち市民は、憲法のかかげる平和及び人権の確立とその擁護のための活動を推進し、人と人とのふれあいを大切にし、いたわりの心がゆきわたる市民生活の充実した高崎市を築くために、「人権尊重都市」を宣言します。

平成7年11月30日制定

## 核兵器廃絶平和都市宣言

私たち高崎市民は、ふるさと高崎を愛し、しあわせがみんなに広がるまちづくりを、未来への道しるべとしています。

しかし、いま私たちの生活に大きな暗い影をおとしているものがあります。それは人類を滅亡におとし入れる核兵器です。この核兵器の廃絶こそ、私たち高崎市民の願いです。

私たちは、平和を愛するすべての国の人々とともに、真の永久平和を実現することを決意し、ここに「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

昭和61年3月5日制定



令和2年度(2020年度)  
教育委員会の点検・評価報告書

令和元年度(2019年度)事業対象

発行 高崎市教育委員会  
370-8501 高崎市高松町35番地1  
電話 027-321-1291  
FAX 027-328-2261  
E-mail ky-soumu@city.takasaki.gunma.jp  
編集 高崎市教育委員会事務局